

プロレタリア通信

71号

2017年
9月20日

発行人 共産主義者同盟プロレタリア通信編集委員会
 発行所 豊島文化社 〒171-0031
 東京都豊島区目白2-18-15 目白コンコルド101
 TEL&FAX 03-6328-9457
 郵便振替口座 00110-00773588
 年間購読 1000円 一部 200円

新たな共産主義運動を

プロレタリア通信派が社会に残せるものとは何か？

大杉 仁一郎

1 はじめに

今回、プロレタリア通信派の解散とプロレタリア通信の廃刊にあたって、メンバーとして過去、活動に関わってきた日々を振り返り、その意義を再度整理してみようと思つた。これは組織的な総括ではなく、個人的な見解だとい

然と自分を左翼と意識していた。その後、組織メンバーとなるに伴い、自分を共産主義者として位置づける意識が明確になったと言える。

点。最初は断っておきたい。ある個人の文章が組織全体を代表するものというのはいかに傲慢だと考えるからだ。

私は学生時代に昭和天皇が病に倒れた後で天皇の戦争責任を隠し、自粛を迫る日本政府に対して戦争責任追求と天皇制廃止を求める活動をしてきた。そして資本主義社会が人間を不幸にする社会ではないか？との疑問は学生時代に強く抱いた思いだった。私が学生運動の活動家となった

盾を前にしていたが世界的視野で見れば日本の豊かさは第三世界に対する搾取を前提としたものだし、国際的な人民の連帯によって世界を変えていこうという思想が自分の活動を支えていた。

かつて大学で学生運動をしていた時代にプロレタリア通信派メンバーとの関係が始まり、その後、メンバーとともに長きに渡って大衆運動に参加した。時間が経過してから正式メンバーとして入党するに至った。学生時代より、漠

88年頃も世界的に見て戦争と格差・貧困が存在していたし、それを生み出したのは近代以降の資本主義社会だと考えたのだ。ただ当時「日本」は相対的に経済が安定した一億中流社会とも言える状況であった。見えづらい社会矛

それと同時にアメリカ農業問題の解決を求めたシンポジウムを大学内で開催し農業に対する関心を強めていった。プロレタリア通信派も農業問題に力を入れ活動していたため、自分の学生時代の経験と重なる部分もあった。それも後にプロレタリア通信派メンバーとなっていく遠い要因の一つであったとも言える。

プロレタリア通信派は大衆運動においていくつかの主要な課題と向き合い、独自性を発揮してきたと考える。代表的な活動として農民と労働者

いわゆる三里塚闘争は千葉県で成田空港を建設しようという政府と空港建設で生活を破壊されることに反対する農民との間での闘争として始まった。運動の質は途中で新左翼の党派が支援者として関わる中で反体制運動という質を持ったものへと変化していった。問題はその反体制運動の内実であった。新左翼党派の中でも自党派の革命理論を上からかぶせ、いわば引き回しの革命運動になりかねない動きが出てきた。矛盾を孕んだ空港反対闘争の中で農民の空港反対闘争組織である三里塚芝山連合空港反対同盟は1983年に熱田派と北原派とに分裂した。プロレタリア通信派は一貫して熱田派を支援する立場で活動してきた。

こうした農業問題の発生は敗戦後の「日本」の歩みに起因している。敗戦後に工業優先の社会構造という性格を「日本は強めていった。いわば農業切り捨てだ。敗戦後、アメリカを中心とした海外からの農産物輸入が拡大した。同時に欧米ライフスタイル(パン食や食肉主体の料理やファーストフードの文化流入)の日本への定着から米の消費が低迷していった。やがて1970年代以降に米の生産量を減らす、生産調整の減反政策が行われるようになった。減反政策は地域の農業の

もの向き合うことができている三里塚闘争を取り上げた。

ものを向き合うことができている三里塚闘争を取り上げた。

ものを向き合うことができている三里塚闘争を取り上げた。

2 農業問題に責任を持つ事—三里塚闘争を通じて獲得した視座

農業問題に責任を持つ事—三里塚闘争を通じて獲得した視座

農業問題に責任を持つ事—三里塚闘争を通じて獲得した視座

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

社会の根幹を支えているのは食料を生産する農業という営みだ。今日、自給率低下・農民の高齢化・地方の空洞化など「日本」において農業は危機に貧している。これら全体を総称として農業問題と呼びたいと思う。

中心であった米の生産を抑制しようというものであったし、農家の意欲を削ぐようなやり方で行われたため、各地で農民の抵抗を招いた。農業より空港を重視し、大規模開発で地域を豊かにしようという成田空港建設の動きはまさに減反と連動した動きだったように思える。

成田空港反対闘争の中で農民たちは空港に反対するには自分たちの思想をまとめあげ、社会に発信していく必要性を感じた。三里塚芝山連合

「徳政を持つて一新を發せ」(1991年)、「仮死の土地から地発しを」(1993年)をまとめあげた。これらの文章はいわば農民の視点から見た革命運動の宣言であった。

「徳政を持つて一新を發せ」では「私たちの農耕と生産活動は、自分の家族の生計の礎であるばかりでなく、たくさんのお金持ちから委ねられた業(なりわい)なのだ、という事です。そして、さらにこの業の重要な構成要素である土地は、単に私が所有権を有する土地であるばかりでなく、公の生命を育む共生の大地であり、生命を維持していくための、最低限必要な社会的共有の財産だったのだという事に、改めて思いを致しているところがあります」と

語られている。

空港建設は公共の福祉だというのが政府の言い分だったが、農地こそ人民全体にとって公共財であり、これからは開発中心で自然を破壊するのではなく、自然と共生する文明をつくっていく、空港反対闘争をしてきた自分たち農民こそがあたらしい文明を作っていく、あたらしい時代をリードするという思いがこうして文章を書かせたと言っている。

90年代に空港問題の解決を目的として、成田空港問題シンポジウム、成田空港円卓会議(以下シンポ・円卓会議と略記)が政府・農民・有識者が集まり開催された。政府の意思としては空港反対運動を収束させ、空港の拡張工事を推進する場として利用していた。しかし、農民の側はシンポ・円卓会議を空港反対運動の延長線に位置づけていた。先に述べた「徳政を持つて一新を發せや」「仮死の土地から地発しを」はシンポの中で発表された。いわばシンポ・円卓会議を言論を通じた思想闘争の場として位置づけていたのだ。プロレタリア通信派はシンポ・円卓会議を農民の闘争の延長線にあるものだと支持し、支援を継続した。

空港反対運動のリーダーである柳川秀夫氏は今もなお、運動を継続している。彼が参加する「地球的課題の実験村」というグループのホームページの中で、自分の考え方を以下のよう語っている。長文だが引用したい。

『地球的課題の実験村』は成田空港に反対し、自分たちの農業を見つめ直すなかで生まれました。私たちの社会は、地球規模のさまざまな環境問題を引き起こしています。人間の活動が地球が消化できる限界を超えてしまった結果です。さらに、富が一部に集中し、弊害だけが豊かさを享受できない人々にも等しく及ぶという深刻な社会問題を抱えています。未来のいのちをいかに守るか―私たちに課せられた重い課題です。そのためのさまざまな試みをする場として、私たちは「地球的課題の実験村」を立ち上げました。

私たちは空港問題の解決のために、政府を相手に「兎孫のために自由を律す」と題した考え方を提起しました。くだけていえば「腹八分で足りるを知る」ということです。

いったん味わった飽食をどう抑えるか。地球はおてんと様があつて、大きな生態系のシステムを形づくっています。また自然界には、すべて

に固有の時間があります。農の世界でいえば、稲の育つ時間にしたがつて、時間を惜しまず、稲株一つひとつの個性を引き出すことが、わざであり、やりがいであり、文化の発展でした。自然の理をよく知り、それを上手に応用し、ものをつくる。それを「農的価値」と私たちは表現しています。

現代は便利さが進むなかで、感じとる力が失われていく時代です。物事を本質的に理解するには、感覚でとらえることが大切です。実験村は人々が自然界と同調できる感性や考え方を養う場なので、ここから効率を至上課題とする工業的価値観とは違う、もうひとつの価値観に立つた腹八分の思想とくらしが生まれます。』と述べられている。

こうした発言にはもう一つの文明をつくらうという気概が感じられた。私個人はこうした農民による自前の思想を前にしたときに、左翼が思想的に闘争を位置付け直し、運動を指導するというような立場にないし、むしろ農民が運動を主導する立場になつていくと感じた。かつて政治党派が運動の「前衛」であるという言葉が語られた時代もあつたが、あえていうならば三里

塚闘争においては農民こそ「前衛の立場」に立ったとも言える。

大衆運動は常に人民が社会矛盾にぶつかった時にその解決策を手探りで模索するプロセスだ。手探りの中で次の時代を開く積極的な面をいかに引き出していくのかが大事だ。

「仮死の土地から地発しを」「兎孫のために自由を律す」などは新しい文明をつくらうという提起であつたし、三里塚闘争を当事者が再定義するという意味を持つた。シンポ・円卓会議での政府との言論戦という闘争を通じて新しい文明観を獲得し、それをさらに社会に訴えていくというプロセスという側面があつた。

プロレタリア通信派が従来の新左翼の闘争スタイルだけにとらわれず、農民が新たな闘争スタイルを模索していたのを支持したのは、新たな党のあり方、既存の革命観、前衛というものを再考するきっかけともなつたように思える。

さらにプロレタリア通信派は三里塚闘争を通じて、農業問題解決を通じて社会変革をめざすという独自のスタンスを獲得していったと思う。それは農業問題に責任を持つという事だとも言える。

先に述べたシンポ・円卓会議は政治党派として大衆運動にどう向き合うのかという問題をつきつけていたように思う。農民自体の思いとしてはシンポ・円卓会議を闘争の手段として位置づけ、参加するというものであつた。

特に柳川秀夫氏はそうしたスタンスで一貫しており、現在も反対闘争を展開している。一方で政治党派の側について話し合うこと自体は権力との妥協であり、運動の一端として見るのは難しいと判断する所が多かつた。プロレタリア通信派はシンポ・円卓会議を支持し、メンバーが傍聴したり、支援を継続した。非常に稀有な例だと思う。そうした活動のプロセスはプロレタリア通信派そのものを変革したし、独自のスタンスを獲得出来たと考える。

最後に簡潔にまとめるとす

3 新しい社会変革の模索

最後に簡潔にまとめるとす

ると、プロレタリア通信派の活動の意義は以下のようなものだったと考える。

①党のあり方変革・前衛モデルへの問い直し

これまでの引き直し・利用主義的あり方からの転換。

②大衆運動の位置づけとそこから党が学ぶこと

人民の積極的な面から学ぶという姿勢で大衆運動に臨むこと

③農業問題解決を通じた新しい文明観の獲得

資本主義が加速した農村と都市との格差と地方解体・環

境破壊という流れを変え、新しい文明を創出すること。真の意味での対等な農民・労働者連帯の模索。

こうした課題は政治運動をする上で広く普遍的に問われるべき点だと考える。資本主義は利潤追求を優先し、貧困と格差を拡大し、階級的対立という矛盾を生み出す。それと同時に自然からの収奪、環境破壊を招くという点でも深刻な矛盾を孕んでいる。階級矛盾と自然収奪の矛盾の両面から資本主義を捉え返すという視点が必要とされているよ

うに思える。自然を収奪しない社会を目指すことは、農業問題解決を通じた新しい文明観の獲得という課題と深く結びついていると思う。

かつて旧ソビエト連邦が原

発推進やカスピ海の環境破壊

など自然収奪の文明という側面を持つていたが、共産主義が自然収奪の矛盾について十分に目を向けていなかった弱点が露呈したとも言える。それはチェルノブイリ原発事故の悲劇にも繋がった。真に資本主義を乗り越える、新しい文明をつくるためには社会の

基本的矛盾を階級矛盾と自然収奪の矛盾の両面から捉え返すべきだと思う。

私自身は大衆運動での経験が長く、外からプロレタリア

通信派を見ていた期間が長く、遅れてきた党員であつた。そのため、この文章では

当事者としての分析というよりは少し距離を置いた所で社会的な意味、普遍的な視点で見たときにどうかという記述となつているかもしれない。

そういった意味でもこの文章は正式な党の総括とは言えない点は繰り返し述べておきたい。

文章のタイトル「プロレタリア通信派が社会に残せるものとは何か？」という問題意識に即して見れば、活動の中で直面した課題を社会に対して再度提起しなおしていく必要があるだろう。こうした課題とは今後一人として活動するにあたり、継続し向き合

い、解決の道を探っていくかと思う。

今や日本の資本主義文明は

チェルノブイリ事故を超える史上最悪の福島原発事故を引き起こしつつも原発推進を継

続し、自然を破壊しつづけている。自主避難者への住宅支援打ち切りをはじめとして、深刻な放射能汚染の中でも、福島県への帰還を強制し、人民を抑圧している。

今こそ自然も人間も収奪しない新しい文明が求められているのだ。それは世界的な課題、資本主義の基本的矛盾の解消にもつながる課題だと言え

る。

私自身も活動の中でそうした課題と向き合つて、解決を目指したいと思う。

プロレタリア通信」終刊にあたって

北山峻

(一)「プロレタリア通信」の終刊は一つの時代の終わりを意味するが、しかしそれはまた、新しい時代の始まりを意味する。

(二)戦後日本の50年代までの革命運動の中で、一方にはボリシェヴィキやコミンテルンの伝統に連なる日本共産党

(戦前の「講座」派)や社会主義協会(戦前の「労農派」)

などが存在し、他方には、ソ連や中国に反対し、日共や協

会派などにも反対し、とりわけスターリンに反対し、トロツキーに親近感を持つインテリ学生を中心とした反戦学生同盟から共産主義者同盟(ブ

ント)の運動が存在した。

(三)さらにブントからは、60年安保闘争の直後に、革命的共産主義者同盟が分裂し、

それもほどなく中核派と革マル派に分裂した。

残ったブントも、60年代から現在に至るまで数多くの分

裂や統合を繰り返して、今では次第に消滅の過程をたどっている。

(四)しかしブントの衰退は、一方ではブント思想の強化であり大衆化にほかならない。

なぜなら、第2次世界大戦からわずか70年余りの間に、ブントが主張したブルジョア

国家ソ連や東欧諸国、さらに中国の崩壊や変質が世界的規模で起こり、ロシアでレーニ

ン像が引き倒され、古本屋でレーニン全集が二束三文になつた如くレーニン主義が

リン主義の反革命性は世界的規模で明白となり、日本共産

党や社会主義協会のブルジョア政党としての本質は日本の

社会では今では常識となつて

いる。

(五)そしてこの70余年の間に大きく変わったのは、世界も我々の生活も同じである。

(六)携帯どころか電話さえもなく、テレビどころか電気釜や洗濯機さえもなく、

どころかバイクさえもなく、ブランド服どころかつぎはぎのズボンやシャツしかなく、

大トロやピザどころか目刺しやたくわんぐらひしか無かつた我々の生活の大変化が起

こつてきました。しかし世界にはそれを圧倒する超大変

化がおこっています。

(七)この200年、イギリス、西欧列強、そしてアメ

リカと続いた強盗どもによる世界の分割支配と収奪は、

い。

文章のタイトル「プロレタリア通信派が社会に残せるものとは何か？」という問題意識に即して見れば、活動の中

で直面した課題を社会に対して再度提起しなおしていく必要があるだろう。こうした課題とは今後一人として活動するにあたり、継続し向き合

い、解決の道を探っていくかと思う。

今や日本の資本主義文明は

チェルノブイリ事故を超える史上最悪の福島原発事故を引き起こしつつも原発推進を継

続し、自然を破壊しつづけている。自主避難者への住宅支援打ち切りをはじめとして、深刻な放射能汚染の中でも、福島県への帰還を強制し、人民を抑圧している。

今こそ自然も人間も収奪しない新しい文明が求められているのだ。それは世界的な課題、資本主義の基本的矛盾の解消にもつながる課題だと言え

る。

私自身も活動の中でそうした課題と向き合つて、解決を目指したいと思う。

表(2016年度・百万US

ドル)によつても、購買力平

価によるGDPで、第1位中

国・21,417,150、

第2位アメリカ・

18,569,100、

第3位インド・

8,702,900、第4位

日本・5,266,444、

第5位ドイツ・

4,028,368、

第6位ロシア・

3,397,368、

第7位ブラジル・

3,141,333、第

8位インドネシア・

3,032,090となつて

いる。

経済力は国の力の源泉です

から、これからも分かるよう

に、もうすでに世界の中心は

中印を中心としたアジアに移り、米欧の衰退は誰の目にも明らかになっているのです。

(九) 世界中の民衆が解放され自由と幸福を享受するためには、米・欧・日・ロなどの古い帝国主義国の転

覆、中・印などの新興帝国の解体、イスラム世界の独立と民衆の解放、世界の被支配民族(もちろん琉球民族やアイヌ民族を含む)の独立と解放、欧米における黒人奴隷制の解体、さらには世界的な

農・林・水産業の重視・農林水産物の価格保証など、我々の前には課題は山ほどありますが、さらに数百年にわたって、我々の子孫たちは戦っていくに違いありません。

(十) いかなる実践活動に

も様々な弱点や不十分さは避けられませんが、羽山太郎を中心とした「プロレタリア通信」の活動は、琉球民族やアイヌ民族の解放闘争の取り組みや、工業資本主義によって塗炭の苦しみにあえぎ、消滅の危機に瀕している農業支援、精神障害者支援、また安倍政権の戦争政策や中国・朝鮮敵視政策に反対する闘争において、先駆的役割を演じてきたと言えるでしょう。

(十一) 長年にわたる疲れ

2017年9月12日

を知らぬ活動に敬意をあらわします。どうもご苦勞様でした。

占領下のパレスチナ情勢 第二次インティファダ記念 学習会のご案内

大賀英二

「エルサレム！ 今、ハンダラ少年は何処に？」と題する学習会が、十月一日(日)午後六時半から文京シビックセンター学習室で開催される。主催はJAPAC(日本パレスチナプロジェクトセンター)、講師に藤田進さん(東京外語大名誉教授)を予定している。

景にあるガザの状況、そしてイスラエルとパレスチナ自治政府および中東諸国との関係について、幾つかの新聞記事を紹介する。

なお、「ハンダラ少年」については、1987年にロンドンで暗殺された戯画作家のナジ・アル・アリの新聞コマ漫画に登場するキャラクター。ナジは、一九三七年にパレスチナに生まれ、四八年のイスラエル建国で故郷を追われ、レバノンで育った。イスラエル米国のパレスチナ弾圧、親米アラブ諸国指導者の傀儡性を捉えて、アラブ諸国のメディアに「ハンダラ少年の後ろ向き姿」で描き続けた。ナジ殺害は、モサドまたはPLO主流派の両方が挙げ

られたままで不明である。彼の著作は、日本でも二〇一〇年に「パレスチナに生まれて」(ナージー・アル・アリー画、藤田進監修)が「いそつぶ社」から発行されている。

最初に共同声明「ガザ地区の電力危機解消を」をお読みください。

も様々な弱点や不十分さは避けられませんが、羽山太郎を中心とした「プロレタリア通信」の活動は、琉球民族やアイヌ民族の解放闘争の取り組みや、工業資本主義によって塗炭の苦しみにあえぎ、消滅の危機に瀕している農業支援、精神障害者支援、また安倍政権の戦争政策や中国・朝鮮敵視政策に反対する闘争において、先駆的役割を演じてきたと言えるでしょう。

(十一) 長年にわたる疲れ

2017年9月12日

を知らぬ活動に敬意をあらわします。どうもご苦勞様でした。

この国際法上の義務を果たすよう要求すること。(電力料金支払いなど)の諸条件については、そのあとで交渉すればよいことです。

3. 国際社会は、この地域の人々の酷い生活の主要原因を止め、イスラエルに対し、封鎖解除を求めること。

関係当事者が私たちの要請に真面目に応えることを望んでやみません。

(署名団体)

- ・アル・ジスル―日本とパレスチナを結ぶ
- ・占領に反対する芸術家たち
- ・アハリー・アラブ病院を支援する会
- ・ATTAAC関西
- ・京都YWCA平和・環境活動委員会ブクラ
- ・国際法市民研究会
- ・高尾山の自然をまもる市民の会
- ・フェミニズムとレズビアン・アートの会

ガザ地区の電力危機解消を共同声明

イスラエルは、最近、ガザ地区への送電量を減少させました。私たち、日本の市民団体は、これに起因する同地区の電力危機を深刻に憂慮しています。

ガザ地区の人々は、1967年以來の半世紀にわたるイスラエルの過酷な占領支配に苦しんできました。とくに、ハマース(イスラーム抵抗運動)がパレスチナ立法評議会の選挙で第一党になった2007年以降、この地域は厳しい封鎖状態に置かれ、し

かも強力なイスラエル軍からの度重なる攻撃を受けてきました。世界の少なからぬ国々が、この非人道的な封鎖を容認、あるいは支持してきたのが現実です。

最近の電力供給削減は、状況をさらに悪化するものです。

一連の報道によると、パレスチナ自治政府は、4月27日、イスラエルに対して、ガザ地区に送電されている電力料金の支払い停止を通告し、合わせて、ガザへの送電を止めるよう要請したということ。続いて、イスラエル政府は6月12日、ガザへの送電量を削減すると発表しました。

これ以来、イスラエルは(段階的に)送電量を減らし、ガザ地区は極端な電力不足に陥りました。現在、ガザ地区の人々が使える電力は、24時間あたった2時間から3時間だといわれます。今日、世界の人口の約80%が、電力に大きく依存した暮らしをしています。想像してみてください

い。この人々が、一日数時間の電力供給で、どうやって日常生活ができるでしょうか。ガザ地区で、最も影響を受けるのは、重病人、身体障害者、乳幼児、高齢者といった、最も支援を必要とする人々です。

理由が何であれ、こうしたやり方は、人道の原則に真っ向から反するものです。私たちは、このような不当な仕打ちに眼を閉ざすことはできません。

この電力危機を解消するために、私たちは、関係する当事者に対して、それぞれの責任を果たすよう、次のように求めるものです。

1. イスラエル政府は、直ちに、ガザ地区への100%送電を再開すること。

占領国が被占領地の住民の福利厚生に責任を持つべきことは、国際法(第4ジュネーブ議定書)に定められています。

2. パレスチナ自治政府は、イスラエル政府に対し、先

の現状を共有化し、占領下パレスチナ住民の抵抗戦の激化を巡って「ハンダラ少年」とはなにか、を語ることである。ここでは、日本のパレスチナ連帯を担う団体が本年七月に、イスラエル大使館とパレスチナ駐日代表部に提出した共同声明「ガザ地区の電力危機解消を」の紹介、その背

の電力危機を深刻に憂慮しています。

ガザ地区の人々は、1967年以來の半世紀にわたるイスラエルの過酷な占領支配に苦しんできました。とくに、ハマース(イスラーム抵抗運動)がパレスチナ立法評議会の選挙で第一党になった2007年以降、この地域は厳しい封鎖状態に置かれ、し

かも強力なイスラエル軍からの度重なる攻撃を受けてきました。世界の少なからぬ国々が、この非人道的な封鎖を容認、あるいは支持してきたのが現実です。

最近の電力供給削減は、状況をさらに悪化するものです。

一連の報道によると、パレスチナ自治政府は、4月27日、イスラエルに対して、ガザ地区に送電されている電力料金の支払い停止を通告し、合わせて、ガザへの送電を止めるよう要請したということ。続いて、イスラエル政府は6月12日、ガザへの送電量を削減すると発表しました。

これ以来、イスラエルは(段階的に)送電量を減らし、ガザ地区は極端な電力不足に陥りました。現在、ガザ地区の人々が使える電力は、24時間あたった2時間から3時間だといわれます。今日、世界の人口の約80%が、電力に大きく依存した暮らしをしています。想像してみてください

い。この人々が、一日数時間の電力供給で、どうやって日常生活ができるでしょうか。ガザ地区で、最も影響を受けるのは、重病人、身体障害者、乳幼児、高齢者といった、最も支援を必要とする人々です。

理由が何であれ、こうしたやり方は、人道の原則に真っ向から反するものです。私たちは、このような不当な仕打ちに眼を閉ざすことはできません。

この電力危機を解消するために、私たちは、関係する当事者に対して、それぞれの責任を果たすよう、次のように求めるものです。

1. イスラエル政府は、直ちに、ガザ地区への100%送電を再開すること。

占領国が被占領地の住民の福利厚生に責任を持つべきことは、国際法(第4ジュネーブ議定書)に定められています。

2. パレスチナ自治政府は、イスラエル政府に対し、先

- ・フレンズオブアシーラ
- ・北海道パレスチナ医療奉仕団
- ・日本基督教団羽生の森教会
- ・ITエンジニアリング研究所
- ・JAPAC
- ・パレスチナ学生基金
- ・学びつなぐ広場―八王子市市民のつこう
- ・武器輸出反対ネットワーク
- ・パレスチナの平和を考える会
- ・パレスチナ・オリーブ
- ・パレスチナと仙台を結ぶ会
- ・フツのLGBTをクイアする
- ・戦争しないさせない市民の会
- ・戦争しないさせない市民の会・柏
- ・キリスト教事業所連帯合同労働組合

ガザの電力停止の要求は二〇一二年にイスラエルの閣僚から要求されたもので、現地新聞 Al-Quds al-Arabi には、以下のよう

☆

イスラエルの閣僚がガザ地区への電力停止を要求
2012年05月13日 日曜日 『クドウス・アラビー』
【ガザ・アシユラフ・アル

「ハウル」イスラエルの閣僚は、夏の間のガザ地区への送電停止を求めた。自らの国の必要電力を満たすためである。この要求が適用された場合、重大な人道危機がもたらされ、その人道危機は封鎖されたガザ地区で悲劇を引き起こすかも知れない。ガザを統治するハマース政府はエジプトやアラブ諸国にガザの「セーフティネット」をつくるよう要請した。

イスラエルのギラッド・エルダーン環境相は、複数の閣僚にこの夏に予想される電力生産不足を克服するための提案を書簡で送り、イスラエルの各所で電力供給を止める代わりに、一定期間ガザ地区のための送電を停止するよう求めた。同環境相は、送電停止がガザで多くの悲劇を作り出すことについて、同地区は「狂信的テロ当局が統治している」との辺自身の立場を正当化した。

元々電力不足に苦しむガザ地区を統治するハマース運動は、イスラエルの環境相の発言に対し、シオニストの恐喝のもとにあるガザ住民のためのアラブ、特にエジプトのセーフティネットを構築すること、そのようなセーフティネットに燃料、電気、ガスを供給するための行動を求めた。また、ハマースのファ

ウズイー・バルフーム報道官は、本紙が入手した報道発表で次の通り述べた。「イスラエルの閣僚の脅迫は、（イスラエルが）封鎖、ガザへの締め付け、ガザ住民の苦しみの累積に邁進していることを示す。」

同報道官は、ガザへの電力遮断を今提起することは「占領下での犯罪や暴力、投獄された捕虜権利侵害についての世界やメディアの注目を逸らすために行われた」と述べた。

一方、「封鎖に反対する人民委員会」ジャマル・アル＝フダリー委員長は占領地が直面するイスラエル閣僚の要求は「死刑宣告」のように重いとこの立場を確認した。

ガザ地区は電力不足に苦しんでおり、電力会社は住民向けの電力を1日につき8時間遮断することを余儀なくされている。また、ガザ地区は3つの電力供給源に依存しているが、最大の供給源はイスラエルである。この他の電極供給源は、（が背の）発電会社が発電する電力と、エジプトからの限られた電力供給である。

☆ 次は今年の夏のエルサレムでの金属探知機問題についての報道二つを紹介する。

ヨルダンのイスラエル大使館で銃撃2人死亡、エルサレム問題で反発か
2017.7.24
08:56産経ニュース

【カイロ＝佐藤貴生】ヨルダンの首都アンマンにあるイスラエル大使館が23日、何者かに襲撃されて銃撃戦となった。AP通信によると、ヨルダン人2人が死亡し、イスラエル人1人が重傷を負った。

大使館周辺は立ち入りが禁止され、イスラエル政府は大使館の職員らを避難させているとみられる。詳しい状況は不明だが、エルサレム旧市街にあるイスラム教の聖地ハラム・シャリーフへの立ち入りをイスラエルが制限したことをめぐり、ヨルダン国内で不満が高まっていた。アンマンなどヨルダン各地では21日、イスラエルへの抗議活動が行われた。

イスラエルは14日、エルサレムの旧市街近くで、アラブ系の3人にイスラエルの警官2人が射殺された事件を受け、ハラム・シャリーフ前に金属探知機を設置。規制に反発したパレスチナ人とイスラエル警察がエルサレム周辺で衝突し、すでに数人の死者が出ている。

イスラエル、エルサレム聖地

入り口の金属探知機を撤去
2017年07月25日BBC
イスラエルは25日、エルサレム旧市街にあるイスラム教とユダヤ教の聖地の入り口に設置していた金属探知機の撤去を始めた。金属探知機の設置をめぐってはパレスチナや隣国ヨルダンから激しい抗議の声が上がっていた。

ベンヤミン・ネタニヤフ首相が出席し同日開かれた治安担当閣僚会議で撤去が決まった。今月14日に聖地の入り口でイスラエル人警官2人がアラブ系イスラエル人3人に射殺されたことを受けて、金属探知機が設置され、緊張が高まっていた。

東エルサレムの旧市街にあるイスラム教徒にとつての聖地「ハラム・アッシャリーフ」は、ユダヤ教徒にとつての聖地「神殿の丘」にあたる。イスラエル首相府は発表文で、治安担当閣僚会議が「金属探知機による検査から先進技術などの手法を活用した検査に変更すべきとの、すべての治安機関からの進言」を受け入れたと述べた。

**2017.7.24 08:56産経ニュース
ヨルダンのイスラエル大使館で銃撃
2人死亡、エルサレム問題で反発か**

【カイロ＝佐藤貴生】ヨルダンの首都アンマンにあるイスラエル大使館が23日、何者かに襲撃されて銃撃戦となった。AP通信によると、ヨルダン人2人が死亡し、イスラエル人1人が重傷を負った。大使館周辺は立ち入りが禁止され、イスラエル政府は大使館の職員らを避難させているとみられる。

詳しい状況は不明だが、エルサレム旧市街にあるイスラ

エル警察がエルサレム周辺で衝突し、すでに数人の死者が出ている。

2017年07月25日BBC

イスラエル、エルサレム聖地入り口の金属探知機を撤去

イスラエルは25日、エルサレム旧市街にあるイスラム教とユダヤ教の聖地の入り口に設置していた金属探知機の撤去を始めた。金属探知機の設置をめぐってはパレスチナや隣国ヨルダンから激しい抗議の声が上がっていた。

ベンヤミン・ネタニヤフ首相らが出席し同日開かれた治安担当閣僚会議で撤去が決まった。

今日14日に聖地の入り口でイスラエル警官2人がアラブ系イスラエル人3人に射殺されたことを受けて、金属探知機が設置され、緊張が高まっていた。

東エルサレムの旧市街にあるイスラム教徒にとつての聖地「ハラム・アッシャリフ」は、ユダヤ教徒にとつての聖地「神殿の丘」にあたる。イスラエル首相府は発表文で、治安担当閣僚会議が「金属探知機による検査から先進技術などの手法を活用した検査に変更すべきとの、すべての治安機関からの進言」を受

け入れたと述べた。

発表文はさらに、新たな機器と警官増員の予算として1億シケル(約31億円)を承認したと明らかにした。

2017年7月3日

ガザ地区の電力危機解消を

共同声明

イスラエルは、最近、ガザ地区への送電量を減少させた。私たち、日本の市民団体は、これに起因する同地区の電力危機を深刻に憂慮しています。

ガザ地区の人々は、1967年以降の半世紀にわたるイスラエルの過酷な占領支配に苦しんできました。とくに、ハマース(イスラーム抵抗運動)がパレスチナ立法評議会の選挙で第一党になった2007年以降、この地域は厳しい封鎖状態に置かれ、しかも強力なイスラエル軍からの度重なる攻撃を受けてきました。世界の少なからぬ国々が、この非人道的な封鎖を容認、あるいは支持してきたのが現実です。

最近の電力供給削減は、状況をさらに悪化するものです。一連の報道によると、パレ

スチナ自治政府は、4月27日、イスラエルに対して、ガ

ザ地区に送電されている電力料金の支払い停止を通告し、合わせて、ガザへの送電を止めるよう要請したということ。続いて、イスラエル政府は6月12日、ガザへの送電量を削減すると発表しました。

これ以来、イスラエルは(段階的に)送電量を減らし、ガザ地区は極端な電力不足に陥りました。現在、ガザ地区の人々が使える電力は、24時間間たった2時間から3時間だといわれます。今日、世界の人口の約80%が、電力に大きく依存した暮らしをしています。想像してみてください。この人々が、一日数時間の電力供給で、どうやって日常生活ができるでしょうか。ガザ地区で、最も影響を受けるのは、重病人、身体障害者、乳幼児、高齢者といった、最も支援を必要とする人々です。

理由が何であれ、こうしたやり方は、人道の原則に真っ向から反するものです。私たちは、このような不当な仕打ちに眼を閉ざすことはできません。

この電力危機を解消するために、私たちは、関係する当事者に対して、それぞれの責任を果たすよう、次のように

求めるものです。

1. イスラエル政府は、直ちに、ガザ地区への100%送電を再開すること。占領国が被占領地の住民の福利厚生に責任を持つべきことは、国際法(第4ジュネーブ議定書)に定められています。

2. パレスチナ自治政府は、イスラエル政府に対し、先ずこの国際法上の義務を果たすよう要求すること。(電力料金支払いなど)の諸条件については、そのあとで交渉すればよいことです。

3. 国際社会は、この地域の人々の酷い生活の主要原因となっているガザ封鎖の黙認を止め、イスラエルに対し、封鎖解除を求めること。

関係当事者が私たちの要請に真面目に応えることを望んでやみません。

・高尾山の自然をまもる市民の会

・フェミニズムとレズビアン・アートの会
・フレンズオブアシーラ
・北海道パレスチナ医療奉仕団
・日本基督教団羽生の森教会
・ITエンジニアリング研究所

・JAPAC
・パレスチナ学生基金
・学びつなぐ広場―八王子市民民のがつこう
・武器輸出反対ネットワーク
・パレスチナの平和を考える会
・パレスチナ・オリーブ
・パレスチナと仙台を結ぶ会
・フツのLGBTをクイアする

・戦争しないさせない市民の会
・戦争しないさせない市民の会・柏
・キリスト教事業所連帯合同労働組合

(署名団体)
・アル・ジスル―日本とパレスチナを結ぶ
・占領に反対する芸術家たち
・アハリー・アラブ病院を支援する会
・ATTA C 関西
・京都YWCA 平和・環境活動委員会ブクラ
・国際法市民研究会

2012年05月13日 日曜

日『クドウス・アラビー』

【ガザ・アシユラフ・アル=ハウル】

イスラエルの閣僚は、夏の間のガザ地区への送電停止を求めた。自らの国の必要電力を満たすためである。この要求が適用された場合、重大な人道危機がもたらされ、その人道危機は封鎖されたガザ地区で悲劇を引き起こすかも知れない。ガザを統治するハマース政府はエジプトやアラブ諸国にガザの「セーフティネット」をつくるよう要請した。

イスラエルのギラッド・エルダイン環境相は、複数の閣僚にこの夏に予想される電力生産不足を克服するための提案を書簡で送り、イスラエルの各所で電力供給を止める代わりに、一定期間ガザ地区のための送電を停止するよう求めた。同環境相は、送電停止がガザで多くの悲劇を作り出すことについて、同地区は「狂信的テロ当局が統治している」との辺自身の立場を正當化した。

元々電力不足に苦しむガザ地区を統治するハマース運動は、イスラエルの環境相の発言に対し、シオニストの恐喝

のもとにあるガザ住民のためのアラブ、特にエジプトのセーフティネットを構築すること、そのようなセーフティネットに燃料、電気、ガスを供給するための行動を求めた。また、ハマースのファ

ウズイー・バルフォーム報道官は、本紙が入手した報道発表で次の通り述べた。「イスラエルの閣僚の脅迫は、(イスラエルが)封鎖、ガザへの締め付け、ガザ住民の苦しみの累積に邁進していることを示す。」

同報道官は、ガザへの電力遮断を今提起することは「占領下での犯罪や暴力、投獄された捕虜権利侵害についての世界やメディアの注目を逸らすために行われた」と述べた。

ロシア革命100周年討論 会へのコメント

八木健彦

2017年8月4日『赤いプロレタリア』編集委員会主催による「ロシア革命100周年」集会に4名の討論素材レジメ・コメントが寄せられた。

なかでも、西葛西善蔵と八木健彦のレジメ・コメントは、「人間の顔」を浮べることでできる文章となっており、西葛西善蔵レジメは膨大な量である。八木健彦のみの掲載とする。

従来ロシア革命100周年という、10月社会主義革命の世界史的意義とレーニン主義・第3インターの継承としてのスターリ主義批判というように通常提起されてきた。ソ連崩壊後は、崩壊の根拠をどう求めるのか、あるいは

社会主義革命に踏み出したソ連の変質の根拠をどう求め、またどのような変質であったかを論じ、そしてレーニン主義の突き当たった壁を問題にすることetcとしてなされてきた。〔註〕

〔註〕そこでは、従来のトロツキー的な社会主義Ⅱ国国有化十計画経済、官僚は独自の階級ではなく労働者国家(プロレタリアート)に寄生した階層といった考え方の克服を前提とした。その際の考え方は基本的に二つに要約される。①生産手段をBrから収奪したのちに、それを実際に労働者勤労大衆の手に引き渡すこと、すなわち労働過程の指揮・管理・運営に労働者大衆が参加し、その自覚的な主体として自主的組織化を進め

ていき、賃労働制の痕跡(精神労働と肉体労働の分業や労働の階位制的編成等)をなくしていくこと。②商品・貨幣をなくしていく。③それを不可避としている本能的共同行為としての交換ではない、別の社会的共同行為としての生産・分配をつくりだしていく。④国家についてコンミュニオン4原則に加えてレーニンが指摘しているコンミュニオンを生産過程と結びつけ、また公務を順番性に基づいて全成員にその能力を育成習熟させる。

官僚主義が国家機構をとらえ、かつ生産過程の組織と結びつくとき、それは一つの独自の社会的力として確立し、生産と分配の指揮権をもって全社会を制圧していく。それは明白に独自の階級の地位と力である。工業化と農業集団化を通じて明確に一つの社会的体制へと転化した。

今、私は少し視点を換えて論じたいと思う。それは従来共産主義運動においてもあまり掘り下げては問題にされてこなかった事柄、(21年の転換)をどう見るかであり、むしろこれを10月革命に比すべき画期ととらえ、共産主義運動史の中に位置づけ直すことである。

1. (21年の転換)の背景について
(21年の転換)はロシアにおけるNEPへの転換と第3インターでのヨーロッパ革命をめぐる持久戦への戦術転換(統一戦線戦術)、そして東方の民族革命の重視と連動した一つながりのものであるが、ここではロシアにおけるNEPへの転換を問題にしたい。

〔註〕この戦時共産主義における農民政策の問題性は、ブレストリトウスク講和をめぐる。SR左派の祖国愛国主義からするの非合法化ⅡボルシャビキとSR左派の統一戦

一方、「封鎖に反対する人民委員会」ジャマル・アル＝フダリー委員長は占領地が直面するイスラエル閣僚の要求は「死刑宣告」のように重いという立場を確認した。

戦時共産主義の最終局面で生じた「労働組合論争」(労働過程の管理運営、労働の組織化の主体と方法をめぐる論争)と3傾向への分解とクロ

10月革命の拠点であったクロンシュタットの反乱は戦時共産主義への農民の明確な異議申し立てであったのではない。クロンシュタットの水兵は軍服を着た農民でありその反乱のスローガンはつまるところ「ボルシャビキ抜き」であった。それがレーニンたちをして弾圧に踏み切らせたものであった。(レーニンは赤軍勝利が明白となったこの時期、世界のBrは「ソビエトは認めるが、ボルシャビキは認められ

るが、最大の供給源はイスラエルである。この他の電極供給源は、(が背の)発電会社が発電する電力と、エジプトからの限られた電力供給である。)

シユタット叛乱によってもたらされた危機を国際共産主義運動の逢着した壁と考え、10回大会の分派禁止決定にその端的な表現とみてきた。しかしこれは一面的である。クロンシュタットの反乱は労働組合論争とは無関係である、(クロンシュタットの反乱が生じるような現実において、それと全く離れて「労働組合論争」が白熱していることにこそ危機はあったのだ。それはレーニン自身も感じていたことであつたらう。)

私は食糧徴発という政策が当時の内戦下においてやむをえないものであり、必要なものであつたとも思う。しかしそれは富農・上層農民に対する貧農・下層農民の階級闘争、農村における社会主義革命と路線化したのは大いなる誤謬、観念論であつたと思ふ。そして説得力を欠いて益々表性的に軍事的手段に依存しながらのそれはではなく、党の中に官僚主義と行政的軍事的指揮系統を肥大させ、スターリン体制を準備するものとなつた。〔註〕

〔註〕この戦時共産主義における農民政策の問題性は、ブレストリトウスク講和をめぐる。SR左派の祖国愛国主義からするの非合法化ⅡボルシャビキとSR左派の統一戦

るが、最大の供給源はイスラエルである。この他の電極供給源は、(が背の)発電会社が発電する電力と、エジプトからの限られた電力供給である。

線の解消という事態によって相乗されていた。10月革命においてクロンシュタット農民の子弟を代表していたのはSR左派であったから。ここは今日的には内ゲバ問題への対処とつながってくる。

しかも当時のロシアは圧倒的に農業国であり、レーニンが5つのウクライナで分析している通り、広大な小商品生産に取り巻かれていた状態であった。このような中でNEPへの転換は唯一の革命ロシアの延命方策となった。

2. 〈21年転換〉の歴史的意義について

レーニンは当初NEPを一時的退却・やむを得ない妥協と強調している。トロツキー・ジビエフ・スターリン等の大半のボルシヤビキにとってもそうであり、それは早急に脱却していくべきものであった。(それは後に左翼反対派の綱領「スターリンの工業化路線へと引き継がれていく。)

レーニンは当初、ロシアの主要な問題は広大な小商品生産、それがもたらす自然発生の無政府性非組織性に対し、PRは社会主義国有産業の管制高地を握りしめ国家資本主義と同盟して記帳と統制を強化し、管理を実施していくべき強調したが、労働者と農民の関係が安定していくにつれ、そしてNEP下でテクノクラートや商人の台頭を見ながら考えを変えていく。NEPは長期的で持久的なものであり、その中で協同組合等を通じて全人民を記帳と統制、管理と運営に参加させ、学んでいく、そのための文化を成長させていくという道筋として、より前進的積極的位置づけようとした。全人民が記帳と統制の習慣を身に付け、全人民が社会全体の中で結びつきを自覚しながら管理と運営に参画していくことが可能となる(文化)が行き渡ること、それが社会主義の前提と考えたのではないか

そしてPRはこういうことの組織者教育者たるべきであり、そのことにおいて指導権を国家資本主義と争い、農民を率いていくべきである。これは従来の社会主義革命論からすれば画期的なことではないだろうか。「註」そしてスターリン体制がこれと真逆の道を進んだのも明白である。ただレーニンは戦時共産主義の総括を残さなかつた。だからともすれば戦時共産主義を理想化し、その当時のレーニンの言説を教条的に振り回す誤りも多く経験している。(ex文革期の「4人組」我々は労働組合論争から多くのものを学ぼうとしたように、このNEPからも多くのものを学び、その総合化の中から新たな道を見出していくべきではないだろうか。

「註」第2インター系からは「ロシアには社会主義のための前提条件が存在しない、そういう中で社会主義革命に進みだすことは本来無理なことであり、失敗せざるを得ない、ボルシェビキは権力に着くべきではない、それは必然的に変質する」といった批判が投げかけられていた。レーニンもロシアが社会主義のための前提を欠いているということを認めている。帝國主義資本主義の最高の発展段階II社会主義革命の前夜であり、「さしせまる破局」で

のべているように「社会主義に向かつて進む以外にない」という認識にたちつつも、戦時共産主義の無残な成果をもつてこのように言わざるを得なかつた。別の道・別の方法でのこの前提の確保という課題こそネップであつた。で、社会主義のための前提条件とは結局なんであつたのだろうか。あるいはソビエト+電化といい、あるいはドイツの郵便組織のようなものをいい、あるいは労働がシステム化される大工業の発展を言つたりしているが、つまるところは、(文化)の問題に行き着いたのではないか。全人民が記帳と統制の習慣を身に付

け、全人民が社会全体の中で結びつきを自覚しながら管理と運営に参画していくことが可能となる(文化)が行き渡ること、それが社会主義の前提と考えたのではないか。「ソビエト権力の当面の任務」として着実にスタートする予定のものが、反革命干渉戦争の内戦下という現実において「戦時共産主義」という革命的強襲でもつて共産主義への移行の一挙の推進へと推転した。21年の転換はその破綻の克服として社会主義への持久的推進として考えられてきた革命論の超克であつた。

3. ロシア革命と〈21年転換〉の歴史的意義について

―その2―

〈21年転換〉は共産主義運動の歴史的画期をなすことになった。永続革命の戦術と革命的強襲による移行期の一挙的推進として考えられてきた革命論の超克であつた。

ロシア革命は直面するBR民主主義革命でPRが指揮権を勝ち取り農民と同盟して推進し(労働民主独裁)、その徹底によつて社会主義革命を準備し、貧農と同盟して社会主義革命へと押し広げる(その間を区別するのはPRの意識と組織の度合いだけ)という「二つの戦術」以来の追求を、帝國主義戦争、ソビエトと二重権力状態という特異な経験の中で実現し、「さし迫

る破局」での「下からの民主主義的統制」という革命的民主主義、そしてコルニロ反乱の粉砕を通じて10月蜂起へと上り詰めた。権力獲得後に「ソビエト権力の当面の任務」として着実にスタートする予定のものが、反革命干渉戦争の内戦下という現実において「戦時共産主義」という革命的強襲でもつて共産主義への移行の一挙の推進へと推転した。21年の転換はその破綻の克服として社会主義への持久的推進として考えられてきた革命論の超克であつた。

欧州でも革命的強襲に時期は終わり、革命の持久的準備(権力獲得のための、権力獲得後の社会主義建設のための訓練)は多数者の獲得、統一戦線戦術、陣地戦、ヘゲモニー等々が問題となつていつたが、これには別の論考が必要とされる。それに対抗してBRの側ではフォーディズム・ケインズ主義がファシズムと並んで台頭してくるようになるが、ここではそこまで論及はしない。

の極めて貴重な残しておくべき歴史の書となると思う。機関紙としての活動は終わるにしても、このような人民の側の運動の歴史を残す活動を継続していかれること期待している。

の極めて貴重な残しておくべき歴史の書となると思う。機関紙としての活動は終わるにしても、このような人民の側の運動の歴史を残す活動を継続していかれること期待している。

の極めて貴重な残しておくべき歴史の書となると思う。機関紙としての活動は終わるにしても、このような人民の側の運動の歴史を残す活動を継続していかれること期待している。

わかる人しかわからない

尾沢孝司

1、佐藤さんよりプロ通の発行を終わりにするので最後

に何か書いてくれとの依頼があつた。そこでプロ通の感想

特に、佐藤秋雄さんの第2次ブントの党内闘争史は、直

接体験した人でなければ書けない極めて貴重な記録であり。

しかし当時直接体験していない者にとつては、少し分かりづらい点がある。佐藤さんは一つの場面の核心部分のみズバツと取り上げるので、そ

の前後の繋がり、背景、周りの状況の説明がないので、そのことがどういう意味をもっているのかわからない。わかる人しかわからない。その事件の背景や対立点、また更に総括などを付け加えていただけたら、これはもう人民の側

佐藤さんありがとうごさね いました。

西空友一

佐藤さんありがとうございます
ました。

しかし、これからも注目し
期待しています。

時間、存在(主体)、空間
との絡み、人間動いて、生き
ているが、いつかは動きを止
めるわけで、8月10日「プロ
通」70号を読んで、天を仰ぎ
長い一息をしながら「時」を
感じました。
編集長の佐藤秋雄さんか

ら、専修大二部(夜間)時代
の活動を聞いた時がありま
す。嬉しく楽しい、元気の
話でした。そして、それ
はどこかで「命水」(涙)が
出そうになるようなもので
ありました。ああー「会津」
(注羽山・二本松)の人だな
と感じました。

若い時、京都にいたころ、
よく「同志社」の前を通りま
した。校門に、元「薩摩藩
邸」だったと看板が立ってい

反米愛国の旗を掲げて

佐藤保

諸事情により『プロレタリ
ア通信』が今号で終刊になる
にあたって、編集者から「自
らの生き方」について書いて
ほしいとの要請があり、いろ
いろ迷った揚げ句、「新左翼
の中で活動しているのに、何
故『反米愛国路線』に固執し
ているのか?」という事にし
た。

一番最初に疑問を持ったの
は公安だった。20年以上前の
事、救援連絡センターの山中
事務局長から「なぜ、反米愛
国派の佐藤が東アジア反日武
装戦線の集会に来るのか?」
と公安が話していたと聞か
された。こちらの認識としては
全ての反権力闘争はそれぞれ
反米愛国闘争の一部分であつ

て、何故だろう? といつも
疑問でした。新島襄のつれあ
いが「会津の人」とか何故か
知っていて、幕末に戦争を
して仲が悪かったのに、何
故「薩摩」の土地を手に入れ
たのだろうか? との疑問でし
た。数年前、大河ドラマ「八
重の桜」で、西郷隆盛が、八
重さんと兄の山本角馬に会い
にきて、土地を売りたいのだ
がいらぬか? という場面
がありました。八重さんが、
戦争をした仲なのに「何故
か」「裏があるのか」と聞く
と、西郷が「いくきは勝つた
り負けたりする。薩摩が負け
たかもしらん」とかいつて、
「裏はなく、買うかどうかだ」
みたいなシーンがあり、少し

若い時の疑問が解けました。
「版籍奉還」「廃藩置県」
「地租改正」などがあり、建
前上は、「版籍奉還」「王政復
古」で土地は天皇のものみた
いな、法的建前がありつつ、
現実には「土地私有」「土地
買」がなし崩し的に進行して
いったように思います。土地
所有は、「明治憲法」制定の
直前でも天皇・公家・その取
り巻き勢力(岩倉具視派)か
ら、憲法に「土地は天皇のも
の」と一条入れる」と伊藤博文
に圧力があつたようだが、そ
んなことをしたら「暴動」に
なり権力がひっくり返ると、
採用しなかつたとかの話があ
ります。
活動を始めた1969年こ

ろ、明治維新100年記念の
残りがあり、シンポジウムが
開かれていて、井上清、遠山
茂樹などの名前を見た記憶が
あります。時の大河ドラマは
北小路欣也主演の「竜馬が行
く」でした。しかし、世の中
は70年安保決戦で、シンポジ
ウムや明治維新100年どこ
ろではありませんでした。
来年は明治維新150年で
大河は「西郷隆盛」ですが、
左翼はマルクス・レーニンを
研究したぐらいの精力と勢い
で、巷に流布する明治維新や
司馬史観とは全く違う、「真
実の明治維新」「明治維新の
実体」を研究するべきと思
います。1945年までの戦前
77年間は、「絶対主義天皇制」

の下、政治的に研究は全く難
しかったとは思いますが、戦後も
余り左翼は勉強してないし、
そこから政治的教訓・経験を
学んでいない。もったいない
し、それでは勝てない。
少し脱線しましたが、学
者・インテリに言わせれば、
こんな歴史もどきの「浪花
節」「与太話」を、そうだ、
そうだと聞いてくれる佐藤編
集長に感謝です。
この度、動きがあり出来る
条件の基で「プロ通」を一区
切りされて、新しく転換・深
化されていくことに敬意を表
します。これからの活動に注
目し期待しています。宜しく

て、何の矛盾もない。言葉じ
りを捉えて判断するのは誤り
である、と答えた事を覚えて
いる。この考えに今も変わり
はない。
69年11月の佐藤訪米闘争
の渦中で逮捕され、73年末に
保釈されるまで横浜拘留所
の中で学習と諸闘争の推移を見
守ってきた私には、70年の安
保自動延長の時点で街頭実力
闘争の時代は一応終わったとい
うのが基本認識であつた。川
島豪氏は組織の武装化を基本
にしないと合法闘争の発展は
望めず「政争阻止闘争に終つ
てしまうと考えていた。川島

逮捕後、闘争の方針を巡って
内部分裂が加速化し、川島氏
を指導者として崇拜した永
田・坂口らは銃奪取から連合
赤軍へ至り、組織は崩壊して
しまった。(72年春)
73年春、細々と活動でき
ていた救対部も限界がきて、
解散してしまつた。それが
あつて初めて73年春、私の保
釈が許可された。家族は喜ん
だが、一工場労働者でしかな
く、対外的活動などやつた事
がない自分はどうすべきか?
まずは連赤の救援活動に加
入する事が求められ、主活動
にならざるを得なかつた。外

では武装闘争の余韻が色濃く
漂っており、京浜安保共闘の
一員という事で期待されて発
言を求められた。しかし、獄
中で街頭実力闘争は、安保自
動延長で終わったと考えていた
私には空しく感じられた。
そういう時、葉山さんか
ら「一緒に学習会をやらな
い」と誘われたのである。一
人で勉強している事に限界を
感じていたので参加して今日
に至っている。その中で強く
感じられたのはセクト間の溝
の深さである。私には小さな
認識の違いにしか見えない事
でも彼らの間では乗り越え難

いものらしく、それぞれが衰
退の一途を辿っていく姿であ
る。離合集散を繰り返しては
かりでは当然である。
今日、安倍首相の対米追従
路線は深みを増し、身内か
らも疑問を呈される程であ
る。オスプレイが日本全土を
我が物顔に飛行して恐怖を起
こしている現在、「アメリカ
は日本から出て行け!」とい
う叫びが全国で発せられてい
る。「反米愛国路線の正しさ
が証明されているように思
える。「愛国」という言葉は非
常に誤解を招き易く「反米を離
れて唱えてはならず、反米と

結合して初めて正しいものになる。だが残念ながら今日、安倍政権の下、ヘイトスピーチ、歴史修正主義として吹き荒れている。しかし、安倍政権の反人民的諸政策に抗して

反原発運動、沖縄人民の闘い、弾圧立法反対運動が力強く推進されている。あと幾年あるか判らないが余生をこれからの人民に寄り添って生きてゆきたいと思う。

共産主義者同盟 第4回 総会

『プロレタリア通信』は71号をもって「廃止・廃刊」とすると前号で告知した。同時に、豊島文化社は9月末日をもって閉鎖することを告知したところである。

この決定は、共産主義者同盟第4回総会（7月16日）で決定した。

うことである。いづれこの第3回総会議案書にこめられた精神は公表されるであろう。なにはともあれ、わずか1年数ヶ月で次なる総会をもって約束ごとを解消し一つの主義者として新しい共産主義運動に邁進することを決意した。

共産主義者同盟 第4回 総会 議題・目次

2017年7月16日

一、総括と方針

1. 「同盟」の解消、約束の解消を第4回総会において確認する。

2. 『プロレタリア通信』同盟機関紙を71号をもって廃刊廃止とする。

3. 事務所・豊島文化社は9月末をもって、閉鎖する。

一、方針（情勢）

一、世界の右傾化と特殊日本

A. 排外主義を撃つ
B. 世界資本主義と日本資本主義

本主義

C. 帝国主義保守・排外について

D. 人々、人民に寄り添う

(1) 農業農民・労働者と市民の連帯

(2) 知念功と友人となつて

E. 人々、人民に寄り添う

(1) 新しい共産主義者像をめぐって

(2) 共生・共同（自立）の共産主義運動を！

一、今後の具体的スケジュールについて

A. 月末に、月1、2回活動報告会を行う

B. それぞれが重大と思うこと、是非知らせたい事について、随時連絡をとり合うこと。

C. 三里塚農民とはこれからも交流をつづける。

D. 三里塚農民との交流窓口は木根輝雄とし、木根輝雄からそれぞれに連絡する。

この「戦争のできる国」戦前同帰こそは日本会議の趣意するところであった。日本会議とは、神社本庁と

一、『プロレタリア通信』発行継続の特別確認

一、総括と方針

1. 「同盟」の解消、約束の解消を第4回総会において確認する。

2. 『プロレタリア通信』同盟機関紙を71号をもって廃刊廃止とする。

3. 事務所・豊島文化社は9月末をもって、閉鎖する。

一、方針（情勢）

わたしたちは、これまでもそうであったように、自立した独自の主義者として政治活動、社会運動を展開する。自ら新しい共産主義者像を模索しつつ職場や地域に根ざした運動を展開する。

日本会議に乗とられた日本政府・内閣は、再軍備・戦争への道をひた走っている

「戦争法」と「共謀罪・治安維持法」は車の両輪をなすものであり自衛隊の明文化を持つて、「美しい国・戦争のできる国」は体系化する。

この「戦争のできる国」戦前同帰こそは日本会議の趣意するところであった。日本会議とは、神社本庁と

かつての生長の家青年学生部を中核とする。日本会議は憲法改悪を主眼として草の根運動を1997年結成時から展開してきた。こうした地域での活動を基盤として地域に根を張ってきた。農業委員会や農協の解体的危機の下で神社・神主などを中心に「家族主義」その頂点に天皇をおおく、明治憲法の再来をおもわせる憲法の改悪である。

かつての農村共同体は過疎と人口減によって消滅したわけではない。日本会議を通してイデオロギッシュに再編されている。戦前への単なる回帰ではない。天皇主義・新たな家族主義として、戦前は継承される。これが憲法改悪の目指すところである。

自由民主党現閣僚の多くは日本会議に所属している。小池百合子は最高幹部の1人である。民進党でも松原仁を始め多くは、日本会議に所属している。このような右派・保守主義こそ、ヘイトクライム・ヘイト・スピーチなどを増長させてきた。

この右派の風潮のもとで、秘密保護法、NSCの設置、安保法・戦争法、遂には共謀罪なる治安立法が5月19日法務委、5月23日衆議院で自民

党・公明党によって強行採決された。6月15日未明参議員で強行採決された。

この右傾向、右派の政府・政権に徹底的に何処までも抵抗する。地域・地区の人々とともに徹底的に戦争法の廃案へ、共謀罪の廃案にむけて活動する。この活動をそれぞれ経験に加えて創意工夫の政治斗争・社会運動を大転開しようではないか。

抵抗者とは何か、自省しつつ前にすすむものごとである。日本会議とは何者か「日本会議はどのように誕生したのか1997年とは、

「現在の時代にあつたマルクス主義」とは、「99%対1%」といわれる中味が、160年前の世界資本主義・世界市場とは格段と違っているということである。一国単位の資本制生産様式とその蓄積様式も異なる。当時の最大の略奪と殺人国家は独立間もない北米合衆国であった。この略奪と殺人国家を「文明国」「自由と開拓の国」とたたえ、ニューヨークの新聞に論文を投稿して生活の糧としていたヨーロッパ人がいた。

つまり、このヨーロッパ人は、賃労働者も企業家も鉄道資本家も一緒くたに「文明家」「開拓者」と美化してきた。先住人・原住民を野蛮人とさげすみ、賃労働者と資本家こそ善良な！ とする価値観を『宣言』した。

「今日のマルクス主義」は、単純な必然論的「唯物史観」でも「二大階級斗争論」的なものではない。

日本の天皇制軍国主義、独の国家社会主義は、共に治安維持法、国家転覆罪など弾圧立法を強制されてきたとは言え、1920年代後半からつづく「不況」今日では2008年から全世界的GDPの停滞・縮減と金融資本（グローバル）による支配は「格差」という名の複雑、複数の「階級」を形成してきたのである。日本的には1920年代後半から30年代の「昭和恐怖」であり、ヨーロッパ的には、ファシズム（伊）とナチズム（独）である。2008年以降、日本的には、バブル経済の崩壊後、とりわけ小泉純一郎登場以降一気に右傾向がすすんだ。すなわち、保守主義・排外主義がすすんだのである。それは、小泉純一郎の朝鮮人民共和国訪問後と言っても良いであろう。

わが日本でも、バブル発生とは、物の生産基盤（企業・

工場の海外移転）の喪失にこそあった。ここに、何ものをも生み出さない。アワ経済。すなわち金融の機械工学的ローン、ロンダリングなる言語が新聞紙上をにぎわしたのである。山や田畑を「荒地」として投機の対象とした。

この土地「荒地」（宅地）とローンづけ、この紙の上のみで往き来することをバブルと言う。アワは、いざれハジケル運命にある。バブル・アワの崩壊は、再び高度経済成長は望むべくもない。平田オリザ的には『下り坂をそろそろと下る』覚悟である。

だがしかし、この覚悟のできなかつた人々こそが日本会議と日本会議に結集する国会議員（自民党中心）たちである。天皇一家主義と侵略思想・「美しい国」を旗幟として。

わが、日本帝国の場合の保守主義・排外主義とは、軍備の拡大、天皇制の復活（憲法118条）である。それは、何を排するか、何を衛るかである。守るべきは、国体である。義務教育課程への柔剣道の導入、国体の本義とは天皇制維持のことであり、柔剣道の義務化・教科化とは、この国体維持の一貫に他ならないのである。天皇教・宗教として洗脳する。神主の元締である天皇と政治の一体化。政教

一致である。

日本会議の役割とはまさしく、この国体維持のための憲法改悪に他ならない。こうして、東アジアへ再侵略を目前にするのである。ここに歴史修正主義の本質がある。

この右翼の野望を撃ちくたくこと、こそこそが東アジアの人々との連帯であり、反差別をたたかう人々との団結である。

東アジアの人々との連帯や団結、東アジアの解放（日本）は今、今日の喫緊の斗争課題である。

国体の本義とは天皇制維持のことであり、憲法改悪・国軍の条文明記こそ日本会議のめざすところである。

一、世界の右傾化と特殊日本の保守会議について

A. 排外主義を撃つ… 排外主義の媒体は右翼の機関紙・サンケイ新聞、御用新聞・読売新聞、安倍晋三広告塔・NHKの御用達

広告屋の新聞などは買わない、受信料を払わない運動を！ 翼賛体制媒体づくりに協力しない。

共通1. 権力におもねる。おもんばる。権力をシッタ激励する。権力の意向を付度する。

2. 憲法の改正（2012

年自民党改憲草案は一つのたき台）より一步踏み込んで

(イ) 天皇 (ロ) 軍隊・軍備、国防の明記

(ハ) 家族規定 (ニ) 国が与える人権

3. 日米同盟を前提とする「自主憲法」と仮想敵としての中国と朝鮮（韓国）とロシア

※ 国家主義を前面に出すことにおいて共通する。極めてイデオロギッシュな政治権力と報道機関の癒着。

歴史的には、小泉純一郎内閣以降、とりわけ小泉純一郎の訪朝と金正日の拉致の承認後保守主義の傾向。社会的風潮、社会の雰囲気は保守主義・排外主義的傾向を強めてきている。

「ハ絃一字」「大東亜共栄」「5族共和」などの侵略思想は、言葉「美しい国」なることばに変えて継承されつつある。再侵略の野望をかきさな

くなった。それが、「領海・領土」の「固有の……」という言葉の方での「海・空軍」による出動・出撃である。

B. 世界資本主義と日本資本主義

第一次産業・第二次革命は、鉄とエンジン動力や電気にあつた。鉄道・船舶・道路、そして、自動車へと。こ

れら重工長大産業・鉄とセメントと表現される産業から1980年代から北米合衆国におけるシリコンバレーにみられるようなIT産業化、通信（最大の経済活動）技術の発達やいわゆる第3次産業の発達として先進国・帝国主義国へと成り上つた。この成り上りは、中進・行進産業国への重工長大の製造業の移転として進行した。

こうして、1980年代には、帝国主義国はおしなべて産業空洞化へとむかつたのである。日本・北米合衆国におけるバブルとはこうして生じた。

投機で稼ぐ金融資本は直接的には、お米も味噌もYシャツやスポーツウェアの一つも生産しない。しかし、今やこの金融資本は新自由主義として、地球をおおいつくしこうした。そして、産業資本・労働者をも支配している

と云つて過言ではない。ここに幾層にもまたがる階級格差（いわゆる本国本社労働者と被植民地支社労働者との関係を含む）が生じている。つまり、階級闘争は2大階級闘争と言つた単純なものではない。生きた生身の政治として相方の階級意識の形成と共にある。問われているのは、労働者の意識にこそあると言わねばならない。

C. 帝国主義保守・排外について

幾層幾層にもまたがる階級と階級格差は、政治主義的排外を呼びさます。

差別や排外は国家が意図的につくり出すものである。その最大最高のもこそ戦争であり、国策のことごとくは、国民を動員し国民を切り捨てることである。国策とは国民を切り捨てること。

今日では、あつたことをなかつたこととする東京電力による福島第一原発の爆発事故を無視し、2020年のオリピックへと流しこもうとする所業である。国家国策とは国民を切り捨てること、棄民すること。これである。

安倍晋三内閣は歴史上最悪と言われる所似は、戦争法をつくり、戦後最悪の治安法たる共謀罪の成立に血道を挙げている内閣だからである。

これほどまでに棄民政策（法律）を押し通そうとする内閣は類を見ないのである。

保守・排外とは、先ずもつて国民を分断する所から始まる。この分断の分水嶺を天皇制や侵略・戦争・治安（内心を含む）の強化にある。国家ありき、反政府（内心）を権力（捜査機関を中心）によつて抑圧・弾圧することにあり。国民を差別・分断しなかつ

マツロワヌ者として排外弾圧する。今、その矢面にたたきられているのが、福島と沖繩である。これを高橋哲哉は『差別の構造』と称している。つまり、高橋哲哉は、昨日、今日の話ではなく歴史（権力・国家）的に差別はつくりだされるもの、そして固定化されたものとして『構造』と名づけているのである。垣内茂子の報告（『プロ通』69号）をみよ！

福島における原子力発電も沖繩における新基地建設も共に国策である。そして暴力・警察機動隊の力によって推進・進行せしめられている。

特に、沖繩では、たび重なる民意（各種首長と議会選挙）が踏みにじられている。人権はないがしろにされている。つまり、垣内茂子流『プロレタリア通信』69号には人権はまさに、じゅうりんされているのである。この沖繩を吾が身とすることなしに、安倍内閣打倒を呼ぶことはできない。

D. 人々、人民に寄り添え
 (1) 農業農民・労働者と市民の連帯

1983年3月8日三里塚芝山連合空港反対同盟の分裂、この分裂の直前まで、鉄道労働者（国労）や全通信や

臨時（アルバイト）労働者や都職現業の人々、あるいは日雇土工や市民は、三里塚現地斗争に参加していた。いわゆる「3・8分裂」後、こうした私たちの仲間うちでもこの分裂について議論百出。

この議論のなかで、空港反対同盟とは何か。どちらを支持するか。がテーマとなった。言うまでもなく、私たちは自身が何者かを問われた。私たちは、あくまでも、都市住民・市民であり、工場労働者であり、学生である。この立場で近代主義・効率主義社会を問うこと、三里塚空港とは、1966年当該自治体はもとより、現地農業農民にさえ一言の相談もなく閣議決定されたのは不当であると、その当初は、市町村議会も反対していた。1980年代までその熱気は保たれてきたのであり、この農民の意志はどこにあるかと。

つまり、私たちは、私たち自身の責任において反対斗争を展開するのであって、農民を「侵略反革命前線基地粉砕」とか、「革命の砦」だの「反政府斗争の出撃拠点」だのとしなないこと。故に、三里塚芝山連合空港反対同盟とは農民の農民による「民主」主義の斗争とすること。したがって、農民運動を支持する

と。

ここに、自らの団体名称を「三里塚に緑の大地を！」としたのである。

この三里塚農民との連帯は微生物農法の会・代表堀越昭平を始め、島寛征などと10数年前からの友好を再開させてきた。

「三里塚に緑の大地を！」は、この経験のうえに、1995年1月発効するWTO反対にむけて、北海道から沖繩・イリモチまで農民連合を結成することとなる。そしてまた、このたたいは、共生共同社会を目指す、大豆畑トラスト運動や「遺伝子組み換え作物をつくらない！食べない！」運動の一翼をも担うこととなった。

小規模産直運動、労働者・農民と市民の顔の見える小規模産直は、農民による都市耕作者隊の組織化とともに農民をも活性化させた。

(2) 「アイヌ解放研究会」は、1970年代後半、初代アイヌ解放同盟委員長の結城庄司（『アイヌ宣言』三一書房）の指導の下に1985年頃まで活動した。「アイヌ解放研究会」は、アイヌ史（日本史）の研究、考古学、言語学（田中克彦など）、文化人類学など週1回勉強会をしてきた。しかし、活動の中心は、アイヌの儀式、儀礼の現

代、現在に再現することである。アイヌ文化に学ぶ活動である。

萱野茂は日高地方二風谷でアイヌ語普及とアイヌ語教室をいち早く取り組んでいた。萱野茂は、保育園でアイヌ語を、しかし幼稚園（文部省）では不可という矛盾を訴えていた。

私たち、「アイヌ解放研究会」は、この萱野茂にいち早く応えた人こそ結城庄司であると。

結城庄司は、アイヌ文化の復元・復活こそ最大の政治・シヤモ政府との斗争であると。この萱野茂によるアイヌ語の復活復興活動を通じて

結城庄司は、ここにアイヌ語はもとより、アイヌの祖霊を供養・慰霊するイチャルパを始め、札幌豊川でのシヤケ（秋アジ）祭り、アシリシツプロミを当時の国交省道庁とかけあつて実現した。その当初は、秋アジをツリ上げるところから始まるわけで、そのアキアジの数の制限まであつたと聞く。

結城庄司は、まずは、実行実現すること。としてアシリツップノミは決行された。結城庄司は、政治家であり実行行動の人であった。

野村義一、ウタリ（現アイヌ）協会理事長もその晩年

は、理事長の肩書きでノツカマツパイチャルパに出席した。その後、野村義一理事長はその考え方を大きく変えた。萱野茂が参議選に立候補を出し、北海道全道労働・社会党が全面支援したとき、ウタリ（現アイヌ）協会内で多くの反対意見があつた。この反対意見に対して、野村義一は、「社会党がいやだというなら自民党も共産党も新自由クラブも皆んな1人づつアイヌを立候補させろ！」と、説得してまわつた。

萱野茂の勇気、野村義一のおおらかな政治力、この2人の決意・決断なくば、アイヌ民族代表のアイヌ語が国会議事堂内にひびき渡ることはなかった。

有史以来はじめて、アイヌ語は国会議事堂、本会議場にひびきわたつた。

豊島文化社を選挙対策本部として、この歴史的事業に参加できたこと、これは、何ものにもかえがたい。豊島文化社の誇りである。

この市民運動選対、事務局を提案したのは、アイヌ解放同盟2代目委員長の樺修一である。こうして全道労働と北海道社会党、そして社会党本部藤田高景にいたるまで萱野茂市民選対は、急遽発足し

た。

1984年アイヌ協会が提案した「アイヌ新法」は、姿と名称を変え、この「アイヌ新法」よりは後退したとは言え、「アイヌ文化振興法」（1997年）が制定された。

いわゆる「単一民族」（中曾根康弘発言）は、国内法において正式に否定された。

アイヌ民族は、アイヌモシリ（北海道）はもとより関東・東海・関西の地に多数生活している。私は、断固として、アイヌ民族の民族議席（自治体と言わず国会にも）要求を支持する。アイヌモシリの返還やアイヌ基金の創設を断固支持する。つまり「アイヌ新法」の実現に向けた運動を支持するものである。

アイヌ文化に限定されない、アイヌ民族固有の権利主張を支持するものである。

(3) 知念功と友人となつて

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

豊島文化は、1980年の秋口から那覇市内を主な活動拠点とする「人民救援会」の人々や「沖繩舎」なる書籍小売店などを中に活動する人々と知り合った。おおむね、豊島文化が知り合ったウチナンチューは、「自立」や「反ヤマト」「解放」などの単語を日常語としているような人々であつた。

1980年代後半であったが、豊島文化社は、月刊紙『翔る』を発行していた。この『翔る』は、北海道から沖縄まで書店や大学生協に小売を依頼していた。こうして、知念功は「ひめゆりの怨念火」と題して、1975年の糸満市ひめゆりのガマで、皇族来沖粉砕斗争の一部始終を書き出した。後に連載文章は天野恵一編集によってインパクト出版から単行本となる。

以来、知念功とは、往き来きする仲となったのである。木田明夫ともこの「沖縄人民救援会」を通じて知り合った。沖縄日雇労働組合とは、「人民救援会」を主導していた人々である。もともと山谷や釜ヶ崎などで活動していた人である。または、1975年反CTSや皇族(皇太子夫妻)来沖阻止をたたかった人々は同時に60年代後半から70年代にかけて、三里塚でたたかった人々である。

1987年47都道府県最後の国民体育大会・国体は沖縄である。国体護持国体の最後の主催県は沖縄である。ここに、「日の丸の旗」引きずり落しや、ソフトボール大会を巡って「沖縄ではやらせない！」など、世情騒然としていた。

まさに、この世情騒然の最中に沖縄労働は結成された。沖縄日雇労働組合はまさにこの熱い熱い夏、6月に結成されたのである。6月23日直前である。

この沖縄日雇労働組合結成とその組織運営に尽力したのは嶺井妙美。

嶺井妙美は、生涯、三里塚農民、山谷や釜ヶ崎の労働者、なによりも那覇港・泊港や首里城周辺にたどむ労働者、路上生活者に心を寄せていた。いわゆる、寄せ場労働者、路上生活者に寄り添うこと。嶺井妙美の一生は、自己犠牲を自己犠牲とする悲愴感を見せることなく、慈母のごとき温かい心もち、表情をもつて接してきた。

一知半解な「マルクス・レーニン主義者」インチキ共産主義者ではなかった。「ヤツツケル!」「打倒する!」「指導する!」そのような態度はみじんも感じさせなかった。常に人々と共にあり、人々と共に泣き笑い生活を共にしたのである。そして、「沖縄は沖縄だ!」ときげんで亡くなった初代沖日労委員長・宮平正栄とともにあったのである。

これこそ共生・共同社会、共同体(平等)を実現しようとした共産主義者像である。嶺井妙美こそ、新しい共産主義者像である。

義者像である。こうした嶺井妙美の生き様に共鳴共感したのは私のみではない。

世界的な芸術家金城実もその1人である。金城実も嶺井妙美の無償の愛とも言うべき活動を見通し見越していた。金城実も、文章やことばとより、自らの芸術作品をもつて嶺井妙美をたたえたのである。金城実さんの偉大なるところ、それは何処までも、市井の人々に目線があるということである。

今流行の「付度」「おもいやる」「おもんばかる」と無縁の人、金城実である。私が尊敬してやまないのは決して偉らぶらないこと、何処までも人々に目線があること、この目線とは、したがって反差別ということにつきる。ここに、ヤマトとウチナーの違いを、単なる違いでないものを、歴史や文化としてある。靖国違憲訴訟に心血をそそいできたのも、反差別・反国家・反権威にある。嶺井妙美は、こうした金城実さんのめがねに合ったと言えべきである。

こうして、玉城は、百十踏場のお墓のトナリ合せて嶺井家の墓に、嶺井妙美の胸像は建立された。このお墓の清婦や胸像の手入れは、姉や妹はもとより、友人たちによつて

保守・保存されてゆく。嶺井妙美合掌

E. 人々・人民に寄り添う(1) 新しい共産主義者像をめぐって

私はこれまで「共産主義とは何か」「主義者とは共産主義者とは...」「共産主義運動について」あるいは、共産主義者同盟について、文章としても多くを残してきた。つい最近では「ブントーその経験の一断面」として『プロレタリア通信』紙上で7回に渡って書いた。私の共産主義、または主義者としての運動について、概念規定した所である。あるいは、その経験の反省・総括・方針・政治路線について書いたと言った方がより正確であろう。

「当るも八卦、当らぬも八卦」と言ったような情勢分析・方針や無責任(身柄のわからない)な評論ではない。あくまでも身柄をかけた、かかるものとしての世界資本主義論であり階級斗争論のつもりであった。だからこそ失敗を失敗とし反省を反省として方針化とすることができたのである。

産主義者像とは、円心円的な「党」と「党」に指導された主義者ではない。ノッペラ棒な金太郎アメのような主義者ではない。感性も感情も豊かな1人の心優しい主義者である。誰れかれの××党派や△△セクトと張り合うような主義者でもない。まして人より一度か二度多く読んだかどうかの知識で、「打倒する!」「ヤツツケル!」なる理論斗争・党派斗争としての運動者ではない。何処までも人々に寄り添える強靱な精神力(知識も理論)のもつ共産主義者であること。人々と連帯し団結する主体(愛情)者としての共産主義者であること。ここには、計り知れない豊かな人間性が要求される。1個の強い主義者であり、イデオロギーの再生産者でなければならぬ。企業毎に、地域毎に、あるいは工場ごとに人間模様も異なるであろう。それが『賃労働と資本』や『党宣言』でこと足りるとするならば、それこそ共産主義運動の退廃である。自ら人間性を放棄することである。イデオロギーや理論の再生産とは、何処までも労働者・農漁民、路上生活者に寄りそうとする精神の内に宿るのである。要求や欲求は何か? これこそがイデオロギー・理論の再生産の源泉である。バカの一つ覚え

えよろしく『資本論』などの受け売りなどでは断じてない。『資本論』を充分理解していないが故の生温い直訳の説教ほど見ぐるしいものはない。これを新興宗教と言う。新しい共産主義者像、それは、獄中であれ山村であれ、大都市、街中であれ、そこに人々が存在している以上、人々の要求や欲求はある。その要求や欲求とどのようにむき合うか。そこに私たちの真価が問われるのである。一方的ではなくあくまでも相方向である。故に、連帯や団結は自然である。

排外主義の媒体と化した新聞・雑誌・テレビ等は、冒頭述べたごとく、天皇や国家、あるいは自民党・安倍晋三ありきである。世界を社会を疑うことこそ評論の意味がある。事件・事故は無数にある。その選択にこそ教養や評論の立場(哲学・または階級性)が表出される。まさに、新しい共産主義者とは日々、自らの立場を問うことなしに存在しないのである。立場とは階級性であり、哲学・理論である。

(2) 共生・共同(自立)の共産主義運動を!

1. 今後の具体的スケジュールについて

左翼の100年・右翼の150年の信仰を撃つ 序説 日本資本主義発達史

左翼の100年・右翼の150年の信仰を撃つ
序説 日本資本主義発達史

まえがき

「徳川幕藩体制」崩壊は外圧を含めて時間の問題であった。内戦をもって強権国家の成立をみなければならなかったのかどうか。

マルクス主義「講座」派的「日本資本主義発達史」(帝国主義)論と異なる論も日本資本主義(帝国)の発達の内戦という吸血時代と血塗られた明治陸仁時代を描きつづけることが重要である。

薩摩・長州を中心とする倒幕運動は、無意味無益な殺傷事件であった。1866年(薩長連合)からアイヌモシリへの植民化、琉球の置県までつづく殺戮の恐怖政治(権力)時代であった。

日本資本主義はすでにクニ・国・藩(300を超)を超えて商品は流通していた。江戸市中のみでも世界最大の人口密集都市であり、その消費量は膨大であった。主食の

米のみでも全国から集められた。米問屋と商い屋は幾重に重なる流通をもって江戸町民に渡ったのであり「資本」とまではいかないが、通貨はそれなりの信用をもって流通していたのである。

××主義や△△主義が問題なのではなくいつの時代、どんな場所でも人々(労働者人々)の暮しが問題なのである。私は労働者人民の暮らしがどうなのかにかこそ関心がある。小セクト・宗派主義たる××イズム、△△イズムに反対である。

何故以下の文章を巻頭にもつてくることにしたか、それは「100年100年」と呼号しつつもロシア暦もキリスト暦も全く理解せず、まして、ロシア暦といつても「10月革命」は知っていない。「10月25日」は知らない。これが「十月社会主義革命」を賞賛し××主義、△△主義を信仰してやまない宗教家の実像である。

第二に、情勢分析・政治方

針がセクト機関紙一面の役割である。しかし『プロレタリア通信』は本号をもって『廃刊・廃止とする。そこで、私・われわれの思想、哲学(立場・理論)のあり様を開示しておくこととした。

A. 「大正デモクラシー」とは

大正デモクラシーを冒頭にとりあげるのは、1912年(大正1年)から1924年(大正13)とは世界史、世界経済上どんな資本主義時代であったかということ。とりわけ遅れて資本主義的生産様式を国是としたロシア帝政と日本帝国は、対外侵略(戦争)につづく戦争で国家財政はヒツパクしていた。

特に、ロシア帝政と1868年後の日本は軍事侵略を先行、そして、資本輸出という近代帝国主義ではなく、古代帝政的、戦国時代の軍事国家的色彩をこの1910年までもっていたのである。ロシアは中央アジアから北東ヨーロッパまで軍事侵攻し

防衛線を延ばしに延ばし、0次世界大戦(1905年)で敗北し、1914年から始まる第一次帝国主義戦争にも敗北した。ロシア帝政下巨民の9割以上は農民であった。水兵も陸軍兵もその圧倒的多数は農民であった。この農民社会、「ミール共同体」と言われる農村・村落は荒廃し、農民は疲弊しきつていた。こうして、1905年のロシア第一次革命は勃発したし、1917年2月のロシア第二次革命は農民の子弟たる水平や歩兵の決起によるものであった。また、1917年2月段階では、農村、農民に支持されていた社会革命党の先道のもと、モスコに襲来したの

は農民である。宮殿に突入した多くは農民市民である(おわすれなきように!)。1917年11月7日(旧暦10月25日)第3次月革命に就いての私の見解は以上をもつて主と明らかであろう。さて、わが日本帝国は、第0次大戦にもカツコツキ「勝利」、第一次侵略戦争にも「勝利」した。だがしかし、戊辰戦争(内戦)から台湾への出兵、朝鮮半島を侵略、中国大陸は清国へとついに、英米をうしろだてとする日本とフランスの支持支援を受けるロシアとの大義なき0次世界大戦へ。1850年代末の

戦争(内戦)から世界大戦へと息つくヒマもなく「富国強兵」で突走ってきた。この財力・資源はなにか。いうまでもなく、農村・農民である。1868年8月からデッチ上げられた「政府」つまり薩摩・長州藩がゲバルト暴力をもって暴力的に江戸城を占拠した。この暴力を公の暴力とすることによって官軍と称したのである。あまねく、人々が承認したものでない。こうして、日本資本主義は血塗れて公然化した。商業・工業は、大阪と江戸を中心に、または、絹は絹と養蚕とあいまって発達した。長野や群馬ではいまもつてその痕跡を訪ねることは可能である。いづれにしろ血塗れた日本資本主義(工業・工場)は、大量の低賃金(かろうじて生命をつなぐ)労働者なしには成立しない。この低賃金労働者は降つてわいてくるわけでもない以上、農村から農民の子弟をかき集めるよりはな

い。日本資本主義は2重に3重に血塗れたものとして誕生したのである。よろしいか、同志諸君、資本主義的生産様式の原始的蓄積(社会主義的原蓄であろう)とは、土地も人間も略奪すること。これを「原蓄」というのだ。世界的にこの

「原蓄」はおしなべて、農民から土地を取り上げること、または、先住民、先住民族から土地を取り上げること

かのカール・マルクスは『共産主義者宣言』共産党宣言』において北米大陸に植・植民したヨーロッパ人をほめそやし文明人とし先住民を野蛮人とさげすんだ。これこそが進化論を信奉するカール・マルクスの信骨頂である。この北米大陸を侵略したヨーロッパ人の所業こそが、資本主義的「原蓄」の典型である。

この所業をわが。日本帝国の北海道植民経営に見ることできないであろうか。アイヌ民族の聖地・アイヌモシリを「無主の地」としたのは誰れか。資本家であり明治初期政府である。

B. 犬養毅・尾崎行雄について
いわゆるデモクラシー、デモクラットを民主主義や立憲主義と解するなら、古くは安藤昌益や田中正造を忘れることはできないであろう。あえて、犬養と尾崎を名ざしたのには、「明治憲法」下での議会主義を街頭で訴えたということ。街頭化したということ。

天皇制が制度化された中

で、警察権力が日々強化されるなか、有力な政治家が闊政治と警察と軍部一体となつた議会軽視に警鐘をならした。この犬養や尾崎に少なからず、影響を与えたであろうとされるのが、吉野作造や福田徳三らではないかと。つまり、民俗学的、地域(農村)的、人々と言つても良いから、資本家や地主や天皇におもんばかつた政治(力・国家)ではなくもつと民衆に寄りそつた政治を議会(国家)をと訴えたのではないか。

こうして、街頭は、百花争鳴を呈した。社会主義者といわず共産主義者も無政府主義者も街頭化しその団体と機関紙も多数出版された。もちろん女性解放運動も、その雑誌も出版されるに到つた。

この事態・社会現象を後に「大正デモクラシー」と表現されるに至るのである。

この「大正デモクラシー」の流れの中で1918年7月23日富山県魚津市(現在の的に)内の婦人たちの一大決起。大蜂起がおこる。この「米よこせ」運動は北海道にまで飛火する。

すでに述べたごとく、日本資本主義はその誕生日前から内戦につぐ内戦、そして、台湾出兵から侵略戦争につぐ、侵略戦争をつづけてきた。大日本帝国はカッコツキ「勝

利」のくせに調子にのつてロシア革命の虚をついてシベリア出兵を計画した。こうして全道、全国で米不足が生じたのである。

魚津市内の婦人たちは、やむにやまれず米屋・米問屋・富豪をおそつたのである。

××主義や△△主義といった宗教より、今、現に生活している人々の生活にこそ関心があると述べた。

私は、真正正明の「マルクス・レーニン主義者として、「プロレタリア独裁・社会主義」のために全精神をかけた。こうして、1968年の10月21日六本木は防衛庁攻撃斗争を昼夜敢行した。この「10・21斗争」来1980年まで非公然の政治生活をつづけた。丸13年間の非公然活動と言つて良いであろう。

私のこの超主観主義、私の「マルクス・レーニン主義」は破産したのである。それは、マルクスやレーニンに責任があるのではない。時代も場所も違うところで、真似ごとをしても他人に迷惑をかけるのみである。このことを1980年9月ノッカマップの丘に立つてざとつたのである。

1980年9月より自分の言葉(方言が強すぎるとおしかりあり)で語ることにした。したがって、ロシア革命1

00年・マルクスはこうした、レーニンはこう主張した。レーニンは……と言つた類いの言説よりは、富山県は魚津のご婦人方に興味を引かれる。また、「大正デモクラシー」は何故1923年の関東大震災で中国人・朝鮮人大虐殺をもつて終焉したのか。

1918年7月23日から9月19日までと1923年9月2日以降の事態。このあまりにも異なる階級斗争の激変。あまりにも正反對な社会現象。日本資本主義のあり様をまだまだ、研究しなければならぬ。

革命家を自称する。私。我々の課題ではないか。

危機の瞬間こそ弱い者同志連帯しなければならぬ。なのに、なぜ、軍・警察の口車にのせられたのか。労働者をはじめ地域の住民はなぜ中国人・朝鮮人虐殺に手をかけたのか。

100年前(1918年)米騒動―100万人に及ぶ人民蜂起

94年前(1923年)中国人・朝鮮人虐殺

80年前「盧溝橋事件」1937年7月7日は中国の首都北京郊外・盧溝橋をはさんで、撃ち合いが始まった。

国民党軍と日帝関東軍は、北京市内を二分して争つてい

たのである。1937年段階で中国大陸深く侵略し蛮行の限りをつくつていたのである。この「盧溝橋事件」をもつて「中・日全面戦争」となった。1945年日帝の敗戦・「中・朝」人民にとつては「抗日戦大勝利」。

私・われわれは、日本人民の一大決起の日(1918年7月23日)を決して忘れてはならない。官権の調査のみで全道・全国で80万人は下らないのである。銃剣をもたぬ民の決起としては、有史以来と言つてよいであろう。

また、1945年10月以降の労働者人民の決起は、1952く3年までつづくとするば、何千万人かにはのぼるであろう。私・われわれは、この人民の歴史に学ばねばならぬ。

※朝鮮半島解放反戦闘争の延長線上に1952く3とは、一つは破防法が成立する過程であり、もう一つは、全面講和か片面(日米)講和かの大衆斗争のことである。

※米騒動もその遠縁は、侵略戦争のツケが幼児から婦人にまでシワ寄せがきたことに對する人々の憤りでありいかりでもあつた。シベリア出兵などもつてのほかだと! 全国津々浦々で「米よこせ」として決起した。

私たちは何があつても加害

責任から逃げられないし免れないということである。1905年の「0次世界大戦」「第一次アジア侵略戦争」「第二次アジア太平洋戦争」いずれも日帝の侵略戦争であつた。労働者だから関係ないとは言えない。

C. 「日韓合意」不可逆的とは何か
安倍晋三は、加害責任を不可逆的に免れると主張した。「加害責任を後世に引きつがない」と。

私は加害の事実は永久にある。歴史を逆転させることも消し去ることもできない。意識的に忘れることはできないであろうか。あるいは、小池百合子のごとく「後世の歴史家にゆだねる」とでも1時しのぎに逃げることはできるかも知れない。

安倍晋三は150年たった今日でも明確に加害責任を自覚している。

安倍晋三は、2017年1月24日発言、「東北では言えませんが」と、1868年9月10日の内戦にふれているのである。

D. 騎兵隊の蛮行
蘆蓄を一つ。

戊辰とは、「つちえのたつ」のこと、12支の一つである。「戊辰戦争・内戦」とは、12

支のうちの一つ。「戊申」さる、ではなく、たつ、だといふこと。慶応4年とは、明治元年だということ。1868年8月までは、慶応、9月以降明治ということ。(1868年9月8日―1912年7月30日)更に一つ、「維新」とは通称1866年の薩長倒幕連合の成立から1877年明治10年頃までを言う。

「維新」「鎖国」なる単語は1900年からの造語。

騎兵隊の蛮行は150年たった現在もお人々の記憶から消えることはないのだから。

100年(ロシア10月社会主義)の流行にしろ、150年の流行にせよ、いづれも支配的イデオロギーによる支配的イデオロギーの拡散にあることは明瞭である。私は生来天の邪鬼なので、こうした支配的な言説に抵抗したくなるのである。

ここに、「面白い著作を紹介する。単行本の全文を紹介する訳にはゆかないので、著者の「あとがき」の一節のみとする。

著者 星亮一「呪われた明治維新―歴史認識「長州嫌い」の150年―」

出版 さくら舎 2017年4月11日発行

単行本帯より「長州は一体、会津の地でどんな蛮行を働いたのか！なぜ会津は長州を許せないのか！過去を水に流したい長州、過去を消さない会津―すれ違う歴史認識！

著者「あとがき」
問題は革命の中にも人道主義、博愛の心があつたかどうかである(羽山著者に共感する)。戦後の会津藩の処遇は、はつきり言つて非人道主義に塗りつぶされてきた。

最後に一つ
会津対長州の行方だが、ごく最近、朝日新聞の2月27日(羽山、2017年)付けの朝刊一面に「えっ！」と驚く記事があつた。

「山口出身の総理は私以外に7人います。そのうち、在職期間ベスト10に入っているのが5人います」
そして続けた。「長ければ良いというものでもありませんが、一番長いのは柱太郎です。こんなことは東北では言えませんが」

と、いふことで和解は完全に困難と思つたのは私だけではなさそうである。

※引用者羽山、柱太郎は、

長州の奇兵隊士やならず者たち(羽山、北米大陸に侵略した欧州人を想いうかべる)は、山狩りと称して、村人たちが避難した山々を巡り強盗や婦女暴行を繰り返した(羽山、ロシア10月革命後の赤軍の食糧調達と同じ)。若い娘を見付けると誘拐して5、6人で押さえ付けて、順番に強姦する。時には、家族の見ている前で事に及ぶこともあつた。家族が抵抗すれば鉄砲で射ち殺した(赤軍は農民の種籾まで奪つた)。このような徒党が入れかわり、立ち代り回つてくるのである。酷いのは八歳から十歳ぐらいの二十人もの女児までもが犠牲になつたといわれる。泣き叫ぶ子供に家族は何も出来ずに、後を向いて耳を塞いで嵐を去るのを待つしかなかった。九月二十一日戦争は弾止めとなり翌二十二日会津藩は白旗を掲げて降伏開城して戦争は終つた。(羽山、これまで書かれることのなかつた史実である)

官庁街に囲まれた東京・日比谷公園内にある洋食の老舗・松本楼。1月24日夜、自民党の役員約20人が集まつた。安倍晋三首相の通算在職日数が歴代6位となつたことを祝う会合、あいさつに立つた首相の口調はなめらかだつた。

「生命あつての人権だと言うこと、大義が革命だとすると、いのちをあらためるとはどのようなことか。かつて、岩田弘 大教授退官・退職を記念して講演会があつた。そのおりに質問をした。「世界革命」、世界の労働者階級のいのちをあらためるとはどのようなことか。労働者の生命とはそもそもどのようなものか、と。その答えを今もつて覚えていない。

私流の答えは、150年とは単なる倒幕運動にすぎないと、革命でも維新でもない。1666年すでに堂島(淀川の埋め立て地)は形成された、1670年代後半は、親方・子方―職人世界は、江戸と地域を結びつけていた。いわゆる「トテイ」は制度化していた。生産力は、大阪、江戸の消費地を中心に格段に拡大していた。いわゆる手工業は衣食住や社会的インフラ5

E. 100年・150年を撃つ主題は人権である。
生命あつての人権だと言うこと、大義が革命だとすると、いのちをあらためるとはどのようなことか。かつて、岩田弘 大教授退官・退職を記念して講演会があつた。そのおりに質問をした。「世界革命」、世界の労働者階級のいのちをあらためるとはどのようなことか。労働者の生命とはそもそもどのようなものか、と。その答えを今もつて覚えていない。

この富山県魚津市から始まる米ヨコセ運動は、労働者市民の運動にとどまらず、8月中旬以降は、農村での小作人による地主攻撃が各地でポツ発した。また、山口県宇部炭鉱で、福岡県は峰地炭鉱で、鉱夫の労働者の決起が始つたのである。これら労働者人民の決起は九州各地の炭鉱労働者と婦人をふくむ地域ぐるみの斗争となつていった。

街道の整備から下水に至るまで制度化していた。
なぜ、なに故に、江戸は、下駄やゾウリ、ワラジで歩けたのか。ロンドンやパリでは考えられない。想像すらできない。

ことほど左様に大阪、江戸、京都も入れて良いが、社会基盤は整備されていた。これを「木材の文化」と称する学者もいる。いづれにせよ、キコリ、物の運搬屋、木材を集める商人、材木を集める場所(木場)、そして問屋、買いにくる大工や職人、これらは制度化していた。同時に、呉服問屋にいたる一つの流れもまた制度化していた。これは1700年代すではじまつていた。古くは、1500年代の堺に始まると言つて良いであろう。大きさに言う

と堺の金融業である。いわゆる「手工業」と商業の発達であり、金貨業は1700代にすでに「堂島の主人がセキをすれば大名が吹飛ぶ」とさえ言われた。

米作の生産力も1600年代から飛躍的に生産力を上げたのである。それ故、江戸期に人口はバク発的に増加したのだ。

幕府・幕藩体制は1700年代後半から内部崩壊は始つていた。とりわけ1850年代初頭より、欧米、とりわけ北米からの圧力は強まつた。倒幕運動とは支配階級の一部による支配階級のための運動である。大義名文のデッチ上げこそ水戸学たる尊皇主義(平等主義はウソ)を吉田松陰はとり入れ、これ尊皇主義を倒幕運動の御旗とした。

この富山県魚津市から始まる米ヨコセ運動は、労働者市民の運動にとどまらず、8月中旬以降は、農村での小作人による地主攻撃が各地でポツ発した。また、山口県宇部炭鉱で、福岡県は峰地炭鉱で、鉱夫の労働者の決起が始つたのである。これら労働者人民の決起は九州各地の炭鉱労働者と婦人をふくむ地域ぐるみの斗争となつていった。

約54日間全国主要都市で人民大衆は蜂起したのである。この数字はロシア1917年11月7日(通称10月)革命を大きくしのぐものである。

官憲による最小の見積。
京都1万、名古屋13万、大阪23万、神戸3万、東京5万、和歌山1万、横浜1万、広島1万、岡山5千、呉3万、門司2万などとなつてい

戻つて、しかも繰り返すと。シベリア出兵直前富山県魚津市の婦人たちは、県外にお米の移出を一切拒否する行動に出た。お米の船積みを始めとしてお米の出荷を拒否、これに男性もまじつて市内の資産家、米商人、町村役場などに対して、米の安売を要求した。勿論、生活困窮者の救助、救済。米の県外移出の禁止などを要求し運動として持続したのである。

1918年7月23日、魚津市から始まる米価引き下げ、米よこせ運動はまたたく間に、京都に大阪に伝ぱした。

8月10日京都市柳原で、名古屋市内では8月10日の夜舞鶴公園に数万人の市民が集り、米価引き下げと米穀取り引き所を攻撃した。8月17日まで名古屋で数万人の労働者市民が同様の大衆行動が実行されたのである。こうして、

この富山県は魚津から始つた生命を衛るたたいとして、米ヨコセ運動から9月19日まで54日間という長期に渡る「いのち」のたたかいは資本家と地主と政府との斗争で

あつた。そしてこの斗争は政府の戦争政策に抵抗する一大反戦斗争ともなったのである。一道三府三二県に及ぶ被抑圧人民、無産者階級の一大決起。

まさしく、日本資本主義発達のなかで消すことのできない階級対立の沸点であつた。これこそ、私・我々が学ばなければならない無産階級の総蜂起とその敗北である。

飯「3人会」について

飯「3人会」について 義(集英社)である。

飯「3人会」は9月27日をもつて3回目である。3人会か4人会か5人会か、継続するかどうかを改めて9月27日に相談したい。

今回、三上治推奨の浜矩子著作『歴史に学ぶ経済集中講義』(集英社)である。

の階級意志に学び、その志をを引き継いでゆかねばならない。

××主義や△△主義が問題

浜矩子の著作はこれまで何冊か手にした。水野和夫先生よりはるその切り筋、歯切れの良さにおいて浜矩子を買うものである。

浜矩子は90歳を越えてなお政治・経済主張を繰り返す伊東光晴(『アベノミクス批判』四本の矢を切る)岩波書店、2014年刊)にならつてか、安倍晋三批判を機会あるごとに展開している。批判の一つに財政(国)と金融(中央銀行)の一体化を口走る安倍晋三に対して全体主

なのではなく何処までも、アイヌ民族の自治獲得・民族議席要求に寄りそい、辺野古に連日スワリコムオジイオバーに寄りそうのである。いまも苦しむ被バク地の子ど

義・ファシズムであると。第二に、2017年年度の施政方針演説で「世界の真中で輝く国創り」に対して、浜矩子は「驚くべき世界制覇宣言です。21世紀大東亜共栄圏の構築を目指しているわけ

三上治はこうした浜矩子の立ち位置に共感しているのかどうかは知らないが、浜矩子

もたち、被バクを覚悟で働く労働者たち、そして、「福島の人々により添うこと。これがそが主要な課題をなしている。これこそが共産主義者の

は原論を原論として成立しないことを説いている。現状分析・現条批判が経済学の学たる所以だとすると原論(浜の場合『諸国民の富』労働価値説)を基礎としつつも経済史と経済学史の応援を得なければならぬとも説いている。

生と尊うアダム・スミスの考えであると。こうして浜矩子

義務であろう。

新しい共産主義運動とはまさしく、かかる人々に寄り添うこと。××主義、△△主義の布教や宣伝に明け暮れることでは断じてない。

は女性や弱者に暖かい眼差しで経済学を講義している。

さて、三上治の真意が何処にあるか、9月27日になつてみないとわからないが、反グローバリズム・多国籍企業——金融資本とは何か。こうした現状(世界)批判の味について議論しようということである。

3人の経験値の違いも合わせて議論となるであろう。

『ABC企画NEWS』

以下に収める二つの文章は、『ABC企画NEWS』からのものである。

A..Atomic(核)
B..Biological(生物)

ABC企画、ABC企画委員会については、一貫して紹介しつづけてきた。731部隊・毒ガス展の開催、未決の戦争責任を追求する。

この会報・委員会機関紙の98号(2015年10月)から

I. 中国人民抗日戦争及び世界反ファシズム戦争勝利70周年

9・3記念式典・パレードに参加して

和田千代子

中国政府は今回の70周年記

念に、抗日戦・中国建国に貢献した各国の元八路軍、解放軍の老戦士たちを招待した。日本からは17人の老戦士と元幹部の遺族そして友人や家族を含め総勢35人が参加した。私は、元解放軍(東北民主聯軍)であつた元ABC企画委員会副代表の山邊さんの友人として出席した。最高齢者は93歳の元八路軍兵士、付き添っていた家族の方が「中国に來たら元氣になった」と言っていたが、インタビューにもシッカリした中国語で応

天安門広場で行われる閱兵式、軍事パレードに最前列の観閲席が用意されていた。しかし閱兵式に参加するに当たり事前に注意事項説明会があり、携帯、カメラ以外カバンも飲み物、食べ物持込一切禁止の厳重さ。記念行事に参加しない人はホテルの部屋ではなく大宴会場に集合しテレビ中継を観る事等々細かく指示され、臨時トイレは設置されているが必要な方には、と紙おむつも準備されていた。

ホテル前は軍事パレードのメイン通りである長安街。3日未明、各戦闘機が凄惨な音を伴って配置された。こっそりカーテンを開けて覗くとパレードの為に綺麗に彩られていた戦闘機が次々と通過しホテル前に「反艦隊ミサイル」が並んだ。

9月3日朝9時前、天安門広場に設置された観閲台に到着し、指定された席に着く。式典までまだ1時間あるが、他の観閲台は既に全員が着席しており配布された色とりど

9月3日朝9時前、天安門広場に設置された観閲台に到着し、指定された席に着く。式典までまだ1時間あるが、他の観閲台は既に全員が着席しており配布された色とりど

りの帽子で鮮やかだった。入場者は約5万5千人の限られた市民で早朝7時頃には到着していたという。私たち招待客は最後の入場だった。

午前10時、礼砲が鳴り響き式典は開始された。私たちのすぐ後ろの天安門楼上に習近平主席が登場、各国首脳陣も次々と登場した。軍事パレード直前、習主席は特別車から上半身を出し兵士の労をねぎらった。「皆さんこんにちは！」「同志諸君、ご苦労様！」兵士は「主席こんにちは！」「人民の為に奉仕します」と返答する。日本にはこの様な雰囲気があるだろうか？主席も兵士も人民も皆「同志」で「上から目線」ではない情景に感動を覚えた。

続く軍事パレードには中国の老戦士、赤十字のマークを付けたベチューン医療隊女士も参加していた。パレードに参加できた解放軍は選ばれた兵士で、家族は「息子を誇りに思う」と語っていた。翌日の朝食時、日本から参加した元解放軍の人が「また中国脅威論に利用されるな」とつぶやいた。中国では英雄・功労者として尊敬されるが日本では「中国帰りが」と差別され苦勞した事も少し話してくれた。機会があったらこの老戦士の体験談を聞いて見たいと思う。

II. 故郷は放射能に被われて
田中 佑幸 (ABC企画実行委員)

事故から約4年、昨年(2015年)の2月に初めて浪江町に在る私の生家に、後継ぎの甥夫婦の案内で行って来た。甥たちは2011年3月11日以降の9月になって初めて、2時間のみ一時帰宅をし、その後何回か浪江の生家に行っている。その為、その折々の状況写真を甥に見せられていた。また、部屋にある物を持ち帰ろうとしても放射線量が高い為、被ばくの関係で避けたとも言っていた。

生家へは、あの「3・11」以来私は初めての浪江行であり、帰還困難区域で有るため、入町許可申請は甥が対応してくれた。そして2月21日(土)、私を高校卒業まで育んでくれた広大で自然豊かな地域・故郷の変容との出会いとなった。浪江町に入る時「通行制限中 この先帰還困難区域につき 通行止め」の立て看板のあるゲートで、「許可書」を提示し、一人ひとりがチェックを受けて通過した。甥の家であり、私の生家でもある「酒井」集落に着いた。ここでも帰還困難区域として道路がゲートで封鎖されていた。役場の指示に準じて

バリケードの鍵を開けてその奥の生家の門口に立った。目の前の一面は、草が育ち今は枯れているが荒れ果てていた。周囲を見やると、母屋の棟(グシ)の一部がかなり窪み、落ち込んでいた。その为天井が一階の部屋まで下がり落ちていた。

あの、3月12日早朝に甥たち家族が総理大臣の緊急避難命令で、着の身着のまま家を飛び出すように離れ、出たまま、以来5年の長きに亘っている。その間何回もの地震や風雨による雨漏りなどで家屋が傷み、襖の張り紙もめくれ、びらんとあちこち垂れていた。佛間も他の部屋と同様に畳を突き抜けた真竹が生え、伸びていた。

そこら中にもものが煩雑に散らばっていた。以前に甥夫婦に見せられていた写真よりも、部屋の凄じ散らかり様につくりした。人が出入りしていないのに、どうしてこんな散らかり様になるのか不思議さを感じた。余りにもすごい状況だった。地域社会や人々の営み・生活が完全に掻き消されていた。

発事故で『安全神話の崩壊』により、これまで六代続いてきたが、甥たちの世代で故郷を奪われてしまった。殆ど人も車も通らない「無人の故郷」となっていた。

暫く生家についてから、家の近くの墓地で墓参りをした。亡き母は今年で69年忌である。8歳まで厳しく躰けられた様々な思い出が脳裏をかすめた。

私は、福島・浪江町の温暖な気候で緑豊かな野山の自然環境の中で伸びやかに過ごした。夏休みは澄んだ水ときれいな砂地の多い高瀬川で泳ぎ、高瀬川の鮎はおいしいと定評があった。カジカも良く釣った。そして思い出深い少年期を過ごした故郷をあとに、進学のために上京した。

町の寺にも寄って墓参をし、請戸港(うけど)へ向かった。嘗て、港では、地元漁師たちが毎朝獲れた魚のセリをしていた。そしてその新鮮な魚を行商人が売りに来ていた。夏は海水浴場でもあり賑わっていた海岸だった。請戸地区における二重被害から約6kmで私の生家と同じ位の距離である。海岸沿いで平地であり、地震と津波が瞬時に押し寄せ大変な被害を受けた。

建て込んでいた街の家が半壊などで数軒が残っただけで、殆んど押し流された。荒涼とした無残さが滲む一面が広がって太平洋に続いていた。

そして、当時この一帯にも、見えない臭わない線量の高い放射能汚染が拡がっていた。生きる命への救助を一刻も早く一人でも多くを目指しての活動である。ここ請戸地区も、消防団や警察官など救助に当たっていたが、「3/14放射性物質漏洩が深刻化し、同日午前に原発からの距離が半径10km圏内の全域(請戸地区等)、同日午後には浪江町東部全域が含まれる半径20km圏内の全域に避難指示が公示される。」という指示があり、急遽、救助作業を中止して切り上げた。

この時である。瓦礫の中から人のうめき声・助けて！などが聞えていたという。立ち留まろうとしても避難することの指示命令がきつく厳しかったそうです。瓦礫に埋もれている中での「命待つ間」。状況を言い表すのには余りにも過酷で、云いようがない。無念の思いが広がるばかりである。

そして、「4/14放射線量が低下したとして、原発より半径10km圏内の一部(浪江町では請戸地区)で福島県警に

よる行方不明者の大規模捜査が始まる(約300人動員)。どうしてこんなことに。(切なくやるせない思いの言葉である)

3/14から一ヶ月経過してのご遺体の状況が、余りにも凄く、多くの人たちも悲歎きに言葉を詰まらせていた。

安心安全は何だったんだらう。どうなっているのか。空しい。原発の安全神話の崩壊した現実に日常の生活基盤が瞬時に奪われた。そして突然の避難命令。着のみ着のまま、その場から当てもない避難が始まった。原発から少しでも遠くへの一本の道路。渋滞で進まない。待つ！待つ！待ちながら少しづつ進むのみの状況だったと浪江の同級生たちも話していた言葉を思い出す。多くの大きな課題を積み残している今、熊本の地震被害の渦中にある。展望のある生き方をと望むばかりである。

※27日原発討論会での発言時間が短く、不足の部分を補足報告して頂きました。(編集部)